日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.2
1969
september

グラビア特集

和蘭陀屋敷紅毛人羽球之図発見！



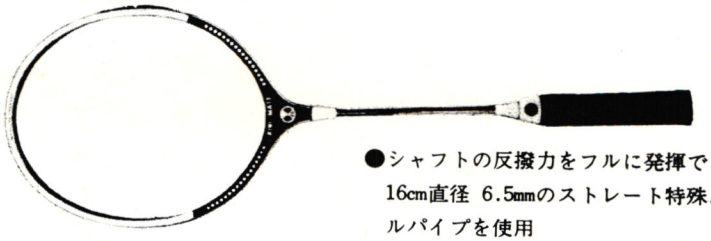
反撥力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

サンバタ

株式会社 諸江製作所

東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話（377）4401（代表）

「羽根つき」で結構

〝大衆性〟を伸ばして普及へ

理事長対談

第1回

日本体育協会専務理事
青木半治氏
ききて
川端昇市

川端　最近はやりの社会体育について、体協の基本的な考え方をお聞きし「バトミントンと社会体育」を考えたいと思うのですが……。

青木　一般のイメージとしてバドミントンは羽根つきの延長もしくはそのスポーツ化という印象が強いですね。たしかに大衆性、社会性はあるし……。

川端　われわれやバドミントン選手としてはこの羽根つきということば、表現を非常に嫌うんですよ。玩具だという……。

青木　僕は嫌う必要はないと思う。技術的にはたしかに違うだろうが、その大衆性からスタートすることはいいんじゃないですか？

愛好者は三百万人

川端　いま全国に登録者は一万六千人います。用具の販売実績からみて潜在的愛好者は三百万人と推定されています。これは社会体育になっているわけですが、かたちとして具体的に、「これがバドミントンの社会体育である」といえるようなものにするためには、いったいどうすればいいか……。



まず指導者養成を

青木　一番いい方法としてはバドミントンに限らないけれど僕は指導者づくりを奨励したいんです。各都道府県から指導者を集めて競技方法などを教え込んで行く。それがそれぞれの地元へ帰って指導し普及させて行く。そこからバドミントン・スポーツ少年団などの育成、発展につながって行くのもよし、ママさんバレーのようなかたちに伸びるのもいいんじゃないですか。

川端　たしかにおっしゃるとおりで、講習会などをどんどん開くようにするとか……。

青木　そうですよ。スポーツ・センターなどもどんどん利用して行けばいいんじゃないでしょうかね。それにユーバー杯で東京体育館が満員になったという実績、これは大きなはげみにもなるし、将来性は高いと評価されてますね。

川端　おかげさまで……。体協のスポーツ・センターなどをなるだけ低額の使用料でお願いしたいんですよ（笑）

青木　結構ですね。新しい羽根つきとして育って下さいよ。日本古来のものでもあるし…。羽根つきというとまた高木選手なんかに叱られるかな（笑）

「バドミントン界」第二号目次

特別連載企画

★百万人のバドミントン上達法
〈上級編〉有効なサービスとは……毛利清志 15
〈中高校編〉私のトレーニング計画……遠井稔男 16
〈幼少年編〉遊びの芽を育てよう……伊藤基記 22
★私の場合……越川　啓 23

よみもの特集

★ホープ登場〈がんばれオリーブちゃん〉……盛川　宏 26
★学校訪問〈サーカスの象になるな〉……後藤忠弘 27
★スポーツ・サロン
〈北から南から〉ハッスル・ママさんコーチ……荒島敏幸 28
〈スポーツとファッション〉白いおしゃれ……吉広紀代子 31
〈西独見聞記〉スポーツを楽しむ青少年……大角三郎 30
★韓国親善訪問記　ライバルを育てたい……今井　先 32
★海外の話題……竹市行男 33

質問箱……33
次号予告……35
表紙……32
編集後記……36
編集部から……36

写真グラフ

和蘭陀屋敷紅毛人羽球之図……17

競技会特集

★日本、五種目を独占〈国際学生選手権〉……小飼栄一、本島義男、竹中悦子、鷲尾正一 2
◇手記……2
◇選手団名簿　◇歴代戦績
★東大阪が輝く〝三冠〟〈全国高校選手権〉……8
◇戦評＝松本弘充、毛利清志　◇優勝監督談　◇地元の感激
★熊本が三連勝〈全日本教職員選手権〉……13
◇試合総評＝岡村英男
★日本、香港を一蹴〈トマス杯アジア予選〉……6
◇遠征日誌　◇ト杯へ挑戦　◇ト杯とは　◇選手団名簿
★国体代表出そろう〈国体展望〉……竹市行男 24
★各種大会の記録……34

表紙撮影　松井亮麿
デザイン　小浜正道
カット　おおば比呂司
　　秦　裕

種目に栄冠

学生選手権 ●○●○

日本が6種目中、5種目のタイトルを独占――第五回国際学生選手権大会は、東南アジア七カ国、約五十人の選手が参加して、八月十日から二十一日までマニラで行なわれた。

日本は全種目にわたって大活躍、男子シングルスをのぞく五つに優勝した。まず、団体男子はグループ予選を無失点で切り抜けたあと、タイを接戦のすえ3―2でくだして2連勝、3度目の栄冠を獲得。同じく女子は

女子団体は1点も与えず
男子もAグループで完勝

【男子】▽Aグループ

日本 3（単2―0 複1―0）0 フィリピン

鷲尾 2（15―15―11）0 リム
滝野 2（15―0―9）0 ウレタ
米田 笠井 2（15―5―0）0 タリ

日本 5（複3―0）0 セイロン

米田 2（15―1―0）0 グルージ
笠井 2（15―4）0 ティス
鷲尾 滝野 2（15―2―0）0 ティス グルージ
米田 笠井 2（15―1―2）0 AMペレラ MYCペレラ
鷲尾 2（15―1―3）0 MYCペレラ

フィリピン 5―0 セイロン

▽Bグループ

中華民国 4―1 香港
タイ 3―0 香港
シンガポール 3―0 中華民国
タイ 4―1 シンガポール
タイ 3―0 中華民国
シンガポール 4―1 香港

▼Aグループ順位 ①日本2勝 ②フィリピン1勝1敗 ③セイロン2敗

▼Bグループ順位 ①タイ3勝 ②シンガポール2勝1敗 ③中華民国1勝2敗 ④香港3敗

◇決勝戦◇

日本 3（単2―1 複1―1）2 タイ

鷲尾 0（10―7―15）2 バンディ
滝野 2（15―6―7）0 バンチャ
米田 笠井 1（12―15―15）2 バンディ プリチャ
鷲尾 滝野 2（15―10―3）0 ヴィスト サングソング



数々のトロフィーを手に喜びの日本チーム

◇日本選手団名簿◇

▼監督 小飼栄一（36）協会常務理事

▼主務 本島義男（21）明大4年、全日本学連委員長

★★★★★

▼選手 鷲尾正一（20）中大2年、172センチ

▼選手 米田 実（19）法大2年、178センチ

▼選手 笠井教行（19）法大2年、176センチ

▼選手 滝野公一（19）法大2年、165センチ

▼選手 相沢マチ子（19）新潟青陵女短大2年、163センチ

▼選手 竹中悦子（19）新潟青陵女短大2年、163センチ

▼選手 小片千恵子（19）日体大2年、157センチ

▼選手 堀川栄美子（18）日体大1年、160センチ

日本堂々5

●○●○ 第5回国際

三試合を通じ1ゲームも落さぬ〝完全試合〟を樹立、2連勝を飾った。

続く個人戦でも、男子ダブルスに米田、笠井組（日本としては2連勝3度目）女子シングルスに竹中（同2連勝）ダブルスに相沢・竹中組（同2連勝、このペアでも2連勝）がそれぞれ王座についた。男子シングルスではバンディ・ジャイアン（タイ）が勝ち、日本の鷲尾は惜しくも準優勝にとどまった。

米田 2（15—18 3—13 15—7）1 プリチャ

◇三位決定戦◇

フィリピン 3（単2—1 複1—1）2 シンガポール

【女子】

日本 3（単2—0 複1—0）0 中華民国

相沢 2（11—11 11—3）0 スン

竹中 2（11—11 11—5）0 Jリー

小片 2（15—15 11—12）0 Yリー

堀川 2（15—12 11—7）0 Jリー

日本 3（単2—0 複1—0）0 フィリピン

小片 2（11—11 11—3）0 Gガン

堀川 2（11—11 11—5）0 ユイ

相沢 2（15—15 11—0）0 Gガン

竹中 2（15—12 11—0）0 Cガン

日本 3（単2—0 複1—0）0 香港

堀川 2（11—0 11—0）0 レイウン

小片 2（11—12 11—1）0 ミュイ

相沢 2（15—12 11—0）0 レイウン

竹中 2（15—2 11—0）0 ミュイ

▼リーグ戦順位

①日本3勝②中華民国2勝1敗③フィリピン1勝2敗④香港3敗

★ 中華民国 3—0 フィリピン

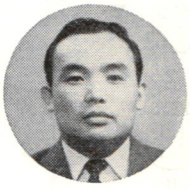
★ フィリピン 3—0 香港

★ 中華民国 3—0 香港

★ 日本 3—0 香港

心身両面で得た教訓

監督 小飼栄一



八月十四日、リサール記念体育館で男子の団体決勝戦。女子は前日香港に三勝して優勝を決めたが実力は十分ながら過度の緊張で心身のバランスを欠き、内容的にはほめられなかった。男子も不安なので安全オーダーを組んだが、単、複とも1対1となり、米田対プリッチャにすべてが賭けられた。

結果的にプリッチャが自滅して奇跡的な逆転勝ちをしたが、日本選手の精神的な弱さが印象的な試合であった。

個人戦は各自が特色を生かして勝ち進んだが、米田の弱気が災いし他選手にも悪影響を及ぼした。六種目中五タイトルで完全優勝は逸した。

男子単の制覇失敗は残念だが初の海外遠征とキャリア不足が苦戦の原因といえよう。今大会で技術的に得るものはなかったものの、体調の調整や同胞愛、集団生活における自我抑制など心身両面で得た教訓は大きい。

これをいかに自分のものにするかは選手各自の努力にかかっているといえよう。

環境の悪いところで長期にわたり、一生懸命の努力によって初期の目的を達成できたのは、ひとえに三菱商事マニラ支店長の山田さん、支店長代理の野中さん両氏のご家族ぐるみの応援と暖かいサービスが大きな支えになったことは否めない。ホテルで、またレストランで、会場で、欲求不満の選手たちにどれだけのいこいを与えてくださったことか。

大きな力でありました。どうもありがとうございました。

そして二十日間にわたる遠征中、一人の事故もなく帰国できたことは、本田会長はじめ先輩諸兄のご指導と御援助の賜と、心から感謝します。

日本チーム過去の戦績

▼第2回大会（一九六六年）クアラルンプール

〔団体戦〕（男子のみ）

優勝＝日本

〔個人戦〕（男子のみ）

▽シングルス優勝＝森　芳夫（法大）▽2位＝鈴木正造（中大）

▽ダブルス優勝＝森　芳夫、池田信孝（法大）▽2位＝鈴木正造、高林弘則（中大）

▼第3回大会（一九六七年）コロンボ

〔団体戦〕（男子のみ）

優勝＝インドネシア▽2位＝日本

〔個人戦〕

▽シングルス優勝＝ルディ・ハルトノ（インドネシア）

▽2位＝梶野尾昌一（法大）

▽ダブルス優勝＝ルディ・スワンディ　ジアントー（インドネシア）▽2位＝梶野尾昌一、児島昇（法大）

▼第4回大会（一九六八年）東京

〔団体戦〕

▽男子・女子優勝＝日本

〔個人戦〕

▽男子シングルス優勝＝タン・エク・モン（マレーシア）

▽2位＝本間順次（中大）

▽ダブルス優勝＝本間順次、武岡秀之進（早大）

▽女子シングルス優勝＝湯木博江（日女体大）

▽ダブルス優勝＝相沢マチ女子、竹中悦子（新潟青陵女短大）

男子単 また優勝逸す

鷲尾がバンディに惜敗

☆…個人戦…☆

〔男子シングルス〕

▼一回戦

笠 井 2(15-6, 10-0) 0 チェン(中華)
滝 野 2(15-4, 15-1) 0 グラント(シン)
米 田 2(15-6, 15-0) 0 ウォン(香港)

▼二回戦

笠 井 2(15-10, 15-0) 0 グルージ(セイ)
滝 野 2(15-8, 15-7, 15-7) 1 米 田
鷲 尾 2(15-6, 15-1) 0 ウレタ(フィ)
バンディ(タイ) 2(15-11, 15-10) 0 笠 井
滝 野 2(15-11, 15-6) 0 リム(フィ)
鷲 尾 2(15-1, 15-8, 15-4) 0 ヤオ(シン)

▼三回戦

滝 野 2(15-8, 15-11) 1 米 田
鷲 尾 2(15-9, 11-5, 15-12) 1 プリチャ(タイ)
バンディ(タイ) 2(15-8, 15-4) 0 滝 野
鷲 尾 2(15-7, 15-4) 0 バンディ(タイ)

〔男子ダブルス〕

▼一回戦

滝・鷲 野・尾 2(15-11, 15-11) 0 リム、タン(タイ)

▼二回戦

滝・鷲 野・尾 2(15-8, 15-11) 0 チョング、ウォン(香港)
米・笠 田・井 2(15-6, 15-3) 0 チェン、オン(中華)
滝・鷲 野・尾 2(15-11, 15-6) 0 バンディ、プリチャ(タイ)
米・笠 田・井 2(15-16, 15-5) 0 ヤン、ペック(シン)

▼準決勝

滝・鷲 野・尾 2(15-13, 15-5) 0 米・笠 田・井

▼決勝

滝・鷲 野・尾 2(15-3, 15-11) 0 米・笠 田・井

〔女子シングルス〕

▼一回戦

堀 川 2(11-0, 11-0) 0 Gガン(フィ)
小 片 2(11-1, 11-0) 0 Yリー(中華)

▼二回戦

相 沢 2(11-1, 11-0) 0 Yユー(中華)
堀 川 2(11-1, 11-0) 0 ス(中華)ン
小 片 2(11-1, 11-0) 0 Cガン(フィ)
竹 中 2(11-1, 11-2) 0 Jリー(中華)

▼準決勝

堀 川 2(11-2, 11-7) 0 相 沢
竹 中 2(11-4, 11-8) 0 小 片

▼決勝

竹 中 2(11-3, 11-5) 0 堀 川

〔女子ダブルス〕

▼二回戦

相・竹 沢・中 2(15-0, 15-10) 0 Jリー、Yリー(中華)
小・堀 片・川 2(15-6, 15-1) 0 Yユー、ス(中華)ン

▼決勝

相・竹 沢・中 2(15-7, 15-10) 0 小・堀 片・川

〔注〕中華は中華民国、フィはフィリピン、セイはセイロン、シンはシンガポール

「英語の勉強」を反省



新潟青陵女短大
竹中悦子

海外遠征は二度目、国際学生出場も二度目。それに暑さも日本の夏と大差なかったこともあって、なにかと落ち着いて終始できたと思う。

初めにフィリピン、特にマニラについて驚嘆したことを、いくつかあげてみたい。治安が悪く、ピストルは自由販売。これではうっかりできないと、白昼でも単独外出を慎しむことにした。停電や水道の断水もしばしば。おかげで七、八階まで、かけ足の〝臨時トレーニング〟やら、昼食のおあずけまでさせられるハメになった。

体育館とホテルの往復は軍用バス。それはいいのだが、敵さん、まったく、時間の観念がなく一時間ぐらい待たせるのはザラ。準決勝、決勝の時などは、われわれをイライラさせるための〝策略〟かと疑ったほど。

ゲーム内容から参考になるものはわずかだったけれど、バンディ（タイ）のネットの正確なさばきと安定、かつ威圧的なリターンは、私にとって大切な収獲だった。残念だったのはインドネシアの不参加。参加していれば私たちにどんな大きな刺激となったかも知れない。

情けないことに会場もガラガラで「観客と選手と、どっちが多い？」などとささやき合う毎日。バドミントンに対する関心の低さには、なんともいえないさびしい気がした。

しかし、そんな中で、在留邦人の家族の方々のご厚意、またオニギリやミソ汁の差し入れがどれほど力強い励ましとなったかしれない。心配された対日感情もただの思いすごしだった。

自分への苦言としては、もっと英語を勉強しなければ、ということ。英語ができればバドミントンの話も、より深く広くさぐれるのに…。

もっと多くのことについて語り、知らせる使命があるのに、じゅうぶんにできないもどかしさを、おわびします。

羽球隊奮戦記

マネジャー
本島義男



夕方、四時ごろになると日課のようにスコールがやってきた。さすが南方である。マニラへ着いた日、さっそく新聞記者がインタビューにやってきた。

「ランキングは？」型どおりのものだったが、ユーバー杯を知らなかったのには一同やゝガッカリ。ここではバスケットボールが一番の人気。バドミントンはマイナー・スポーツと聞いてふたたびガッカリ。

小飼監督は選手たちの体調にあれこれとまったく口やかましい。毎日のスコールと同様に、栄養剤のポポンSと整腸剤のビオフェルミンばかりのまされ、みんなあきあき。それでものまないと叱られるし、小飼監督がどんなに怒るか！と思うとまったくつらかった。（ごめんなさい。監督のココロも知らないで……）

試合場は照明などが配慮されており、マイナーの割りには行き届いていたが、蚊が多いのには閉口。

ところで、われわれはなにしろ若く、食べ盛りときている。加えて整腸剤をのまされているからモリモリ食べた。主として中華料理が中心。そのうちフトコロぐあいが怪しくなってきた。毎日、勘定しながら四ペソ（三百六十円）以内と決めての食べ歩き。

そしてフトコロどころか腹ぐあいまで怪しくなってきてしまい、とうとう相沢は食べすぎがたたってバテてしまいダウン。準決勝で堀川に負けてしまう始末。小飼監督の怒る道理もわからぬではないがなにはさて、日本じゃないからイライラはみんな同じだ。

試合――審判のミス・ジャッジが多い。文句をいうと監督がまた「あまり、うるさくいうなよ！」

選手たちは若い。小飼監督との間に立って、統制をとるのにひと苦労。「本島ダウン」という情報が日本に流れたそうだが、ダウン寸前にまで追い込まれたのは事実。一日に数回トイレにかけ込む悪性下痢に苦悩したのも確か。選手としてはタイのバンディ・ジャイアンのネットプレーが抜群に光っていた。鷲尾は団体個人戦もストレート負け。場なれした好選手。

ともかく、暑さ（三十三度）も手伝って、決して快適ではなかった遠征ですが、いろいろな意味で勉強になったことは、いうまでもない。

ただひとつ残念なのは、あいにくの曇天で、有名なマニラ湾のサン・セットを見逃したこと。でも観光旅行じゃないから、これまたやむを得ぬことでありました。

体力、気力、スピードをつけたい



中大
鷲尾正一

初めての海外遠征試合なので少々緊張しましたが、無事、終えられたことを全員で喜びたいと思います。

出発に際して、協会はじめ先輩諸氏各位に、いろいろ適切なアドバイスをして頂きましたがもろもろのことが頭から離れず不安でした。それでも自分の持っているバドミントンのすべてを出して、どれだけ通じるかがん張ってみようと、固く心に決めて、機上の人となりました。

まず、マニラに到着して初練習の時、想像以上の暑さに驚かされました。というのは、短時間の乱打で胸が苦しくなったことです。

しかしこの暑さも二回、三回と練習を重ねるに従って慣れてきて、試合日が近ずくにつれ〝よしやってやる〟という気持に変っていきました。

参加国は思ったより少なく、楽しみにしていたインドネシア・チームとの対戦や、観戦が出来なかったことは残念ですが、反面、タイの選手が予想以上に強かったのはおどろきました。団体戦では辛くも3対2で勝ち個人戦もタイの選手が相手でした。

ダブルス決勝は日本チーム同士の対戦だっただけに、安心していました。それで、シングルスだけは是が非でもと思っていましたが、タイ国ナンバーワンのバンディ選手に、決勝で負けてしまいました。

団体戦で米田君が大接戦を演じ、最後まで試合を捨てずに勝ってくれたことが、強く印象に残っているだけに、シングルスは自分にとって悔まれてなりません。

今度の遠征を通じて痛感させられたことは、どんな条件や環境のもとでも〝全力を出しうる体力と気力、いかなる相手にもまさるスピードを身につけるという二点。今後の課題として努力を続けていくつもりです。



日本アジア地区決勝へ

トマス杯予選　香港を一蹴

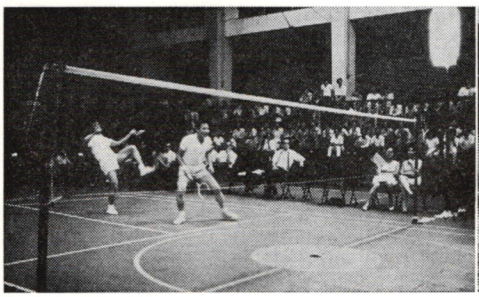
日本、早くもゾーン決勝へ―第八回トマス杯男子世界選手権大会のアジア・ゾーン東地区、日本対香港戦は九月十三、十四の両日、香港で行なわれ、日本が9対0で快勝した。

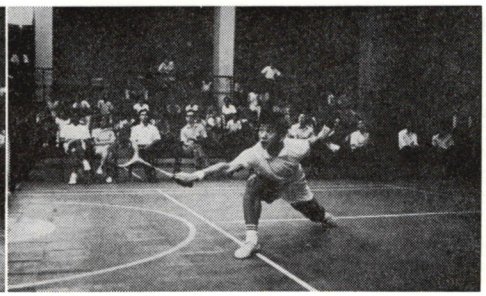
アジア・ゾーンは東西二つに区分されており、東側の地区に申し込んだのはこの両国だけ。この結果、勝った日本は、いきなりゾーン決勝に進出、インターゾーンの代表権を西側地区の勝者と争うことになった。

さきのユ杯優勝という〝上げ潮ムード〟に乗って、男子もまた栄冠めざし、力強い快進撃の第一歩を踏み出した。心からの拍手と声援を送ろう。

なお、アジア・ゾーンの決勝は来年三月末までに(場所未定)インター・ゾーンは同五、六月にクアラルンプール(マレーシア)で行なわれる予定。

【写真説明】
中共仕込みの黄(ウォン)幸(クー)組必死のくいさがり(左)西野選手の巧みなレシーブ(右)





▼トマス杯アジア・ゾーン準決勝(東地域決勝)

●会場　香港大学スポーツセンター

●使用シャトル　R・S・L78グレイン

日　本　9―0　香　港

▽第一日

小島一平 2(15―3 6)0 鄭文科
本間順次 2(15―1 4)0 朱世華
小島一平 2(15―6 7)0 辜建忠
西野一征　梁平山
堺栄一 2(15―9 4)0 鄭文科
本田順次　黄飛鴻

▽第二日

小島一平 2(15―4 2)0 朱世華
堺栄一 2(15―9 2)0 辜建忠
本間順次　梁平山
本間順次 2(15―7 1)0 鄭文科
西野一征 2(15―9 4)0 黄飛鴻
堺栄一 2(15―9 2)0 辜建忠
本間順次　梁平山
小島一平 2(15―11 15―5)0 黄飛科
西野一征　鄭文鴻

九月九日　午后香港着、香港バドミントン協会役員の出迎えをうけ宿舎インペリアルホテルへ入る。

九月十日　午后七時、香港大学スポーツセンターで練習開始。香港島の丘上にあるスマートな体育館であるが天井がやや低く照明もあまり良くない。床はコンクリートにラバーを貼りつけたようなものであった。

九月十一日　香港バドミントン協会会長であり、今回の名誉審判長でもあるロドリゲス氏立会いの下に組合せを行い、小島は第一日第一試合と決まる。これは日本にとり非常に有利であった。対戦相手は香港ナンバーワンのクー・マン・フー。本間対チュー・サイ・ワー。西野対ウォン・ファイ・ハン。このウォン・ファイ・ハンは中共でプレをしていたためかなりの腕前と一思われる。

九月十二日　午后七時練習、今日で三日目だが期待の堺・本間組が仲々調子が出ず、かえって小島・西野組が好調である。本舞台をふんだ経験がやはりものをいうのであろうか。

九月十三日　七時半試合開始。小島絶妙のコントロールで相手を圧倒15―6、15―3と第一試合を飾る。第二試合、トマスカップ初登場の本間、多少立ち←

トマス杯について

男子の団体世界選手権、トマス杯は一九四九年から三年ごとに行なわれている。

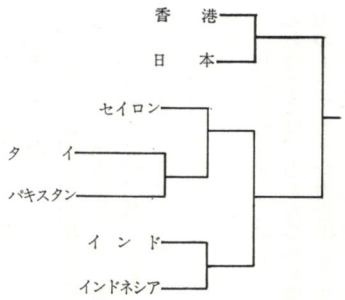
初代のIBF(国際連盟)会長ジョージ・トマス卿(英)がカップを寄贈した。

国際規約の改正で、今回から世界四大ゾーン勝者のほか、選手権国もインターゾーンに出場して、栄冠をきそう。

ユーバー杯とは試合数(5単4複)と日程(二日間)がちがう。エントリーできる選手数は六人まで。

日本は第三回から参加(第五回は不出場)第六回で米州ゾーンから出てインターゾーンに進出したが、一回戦でマラヤ(現マレーシア)に負け。第七回は

＜アジア・ゾーン組み合わせ＞



トマス・カップへ挑戦
ユ杯に負けるな

コーチ　福井正康

一九六九年二月、日本バドミントン協会は、第八回トマス・カップへのチャレンジを開始した。

ユーバー・カップの防衛戦をあと四カ月後に控えての時である。小宮淳宏監督と福井正康コーチがまず決定、一九七〇年二月の対インドネシアへ目標を想定、直ちに候補選手十二名を選抜、第一回の強化合宿にはいった。

時に一九六九年五月、会場はユーバー・カップの合宿でゲンの良い神奈川県逗子市民体育館であった。候補選手十二名中、秋山、伊藤、高林の三名が不参加、代わって池田、関、武岡が加わる。

まずダブルス強化を主体として沢山のダブルスのチームを編成、当然、実績のあるダブルスを軸に、若干の新ペアを回転させる。既成のペアでは堀・杉山組、小島・西野組、新しいペアでは堺・本間組がクローズアップされた。

同年七月、第二回強化合宿開始。会場は同じく逗子体育館である。合宿入りを前に児島がアキレス腱切断、梅野尾と組んでいたダブルスが消失したのが痛い。

前回のメンバーに秋山が参加シングルスで貫録をみせる。しばらく戦列を離れていても、さすがは全英ファイナリストの経験がモノをいう。

シングルスではトーナメント方式の試合形式をとり、関が小島とともに好調。また池田、伊藤が小島とファイナルゲームの熱闘を展開、ダブルスでは堺・本間のペアが断然強い。秋山・小島のペアもしぶとい。

八月、第三回強化合宿。インターハイ、教職員大会と関東選手権の日程の間をぬい五日間。九月十三、十四日の対香港戦が目捷の間に迫った。

最終選考合宿であるため、環境を重視して、茨城県日立市、日立電線体育館を会場とする。

川端理事長をはじめ協会役員が多数来観、いよいよ熱気がこもる。シングルスでは小島、堀の腰痛がなおり切らず、また秋山が不参加で淋しいが、西野が久し振りに粘り強いプレーをみせて小島に続く。

ダブルスでは堺・本間が依然として強い。続いて西野・梅野尾、そして最終日、森・池田がすばらしい出来をみせて合宿終了。

八月三十一日、対香港戦のメンバー発表。選手四名の少数精鋭の選抜となった。九月九日、香港へ出発。

九月十四日　第一試合、小島が楽勝し5―0と日本の勝利が確定した。このあと4試合を全勝して結局対香港戦9―0と完勝したが香港は世界第3位の日本にはあまり勝つ気がなかったらしく、また選手層も薄かった。しかし、体育館、運営等バドミントンに対する各人の理解度はかなり高度で、経験の深さを十分感じさせるものがあった。

九月十五日　この日副会長であるロマン・ヤング氏よりニュージーランドがシンガポールを下して豪亜ゾーンに優勝したことをきかされた。われわれはアジアゾーンの一回戦に勝っただけだし、2月末の対インドネシア戦までまだ日がある。今後の課題はサービスとダブルスのコンビネーションの強化である。

監督　小宮淳宏
コーチ　福井正康

■対香港戦日本チーム■

★監督　小宮淳宏（40）協会副理事長、第四回ユ杯監督、慶大出

★コーチ　福井正康（36）協会指導委員会委員、第四回ユ杯コーチ、早大出

★選手　堺　栄一（29）43年全日本単複1位、第七回ト杯代表、43年シンガポール、マレーシア各オープン単2位、中大出、ヨネヤマ・ラケット

★選手　小島一平（26）43年全日本単複1位、第七回ト杯代表、43年シンガポール、マレーシア各オープン単2位、中大出、河崎ラケット

★選手　本間順次（20）43年全日本単2位、複3位、全日本学生単複1位、第四回国際学生単2位、複1位

★選手　西野一征（26）43年全日本単7位、複4位マレーシア・オープン複2位（パートナー小島）中大出、自営

★選手　関　武幸（20）43年全日本単9位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

★選手　梅野尾　勝（20）43年全日本単3位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

★選手　森　浩一（20）43年全日本単5位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

★選手　池田信太郎（20）43年全日本単5位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

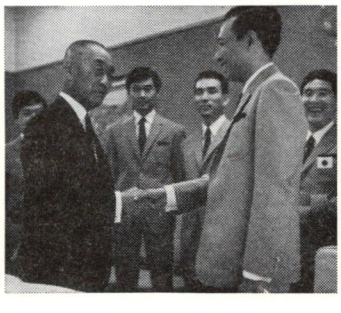
★選手　伊藤　昭（20）43年全日本単5位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

★選手　武岡　隆（20）43年全日本単5位、全カナダ選手権複3位、全米同2位、早大出、河崎ラケット

本田会長
選手団を激励

ト杯対香港戦を終えた日本チーム一行は十七日夜帰国、翌十八日午後二時、東京ガスに本田弘敏会長を訪れ〝勝利のあいさつ〟をした。

本田会長は各選手の労をねぎらったあとで弱い相手でも9―0の完勝は簡単にはできない。来たるべきインドネシア戦にもベストをつくしてほしいと激励した。



本田会長（左）にあいさつする小宮監督

豪亜ゾーンに勝ち、インターゾーンでも米国をくだしたが、準決勝でマレーシアに敗れた。

歴代優勝はマラヤ（一―三回）インドネシア（四―六回）第七回マレーシアとなっている。

←あがり固くなったがすぐ落ち着き15―1、15―4と楽勝。

つづいてダブルス戦。小島・西野組好調に走り15―6、15―7で3勝目をあげる。

第4試合、堺・本間組がやや不調であり、相手は中共仕込みのクーマン・フォアとウォン・ファイ・ファンでかなり強いため前半ラリーが続いたが結局15―9、15―4と4勝。これで第一日目を4―0とリード。

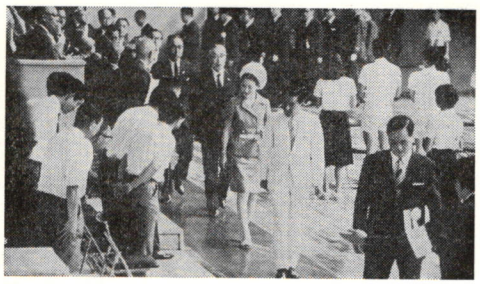
金沢市工が二度目の優勝

団体 女子は東大阪が二連勝

第二十回全国高校選手権大会は、八月一日から七日まで、群馬県桐生市で行なわれた。

沖縄をふくむ全国四十八都道府県から約二百校、千人を越す若人が参加、未来のト杯、ユ杯代表を夢みて、日ごろの妙技をきそった結果、団体の男子は金沢市立工（金沢）が一昨年についで二度目の優勝をとげ、女子は東大阪高（大阪）が輝く二連勝を飾った。

個人では富山商の尾崎がシングルスのほか、中川と組んだダブルスにも勝ち、二種目を制した。また女子も、東大阪の柴山が単複（複のパートナーは高崎）に優勝、団体戦と合わせ〝三冠王〟となった。なお東大阪も二年連続の〝三冠〟制覇である。



〔男子団体〕

▼準々決勝

県立高岡商（富山） 3—1 宮城県立工（宮城）
栗栖 2 (1515—9) 0 小原
山岸
河田 上 0 (6—1515) 2 関本 鈴木
山岸 2 (1515—3) 0 小原
栗栖 2 (1518—8) 15 0 鈴木

桐生市立商（群馬） 3—2 新潟商（新潟）
内田 桐生 1 (9 1511—1513 15) 2 山田 竹野
小林 渡辺 2 (1512 15—15 5—4 15) 1 高橋 堀井
内田 2 (1515—5) 5 0 山田
桐生 0 (4 13—1518) 2 高橋
渡辺 2 (1515—2) 3 0 竹野

富山商（富山） 3—2 日大山形（山形）
尾崎 中川 2 (1515—7) 9 0 佐藤 伊藤
松島 森田 0 (14 4—1715) 2 牧野 高橋
尾崎 2 (1515—1) 7 0 佐藤
中川 1 (111015—1515) 8 2 牧野
西村 2 (151513—6 2 18) 1 伊藤

金沢市立工（石川） 3—0 秋田経大付（秋田）
小中 村谷 2 (1515—1) 12 0 舟山 菅
田賀 中橋 2 (1515—9) 7 0 鎌田 原田
中橋 2 (1515—10) 4 0 舟山

▼準決勝

桐生市立商（群馬） 3—0 高岡商（富山）
小林 渡辺 2 (1515—5) 10 0 河田 上
内田 桐生 2 (1515—8) 8 0 栗栖 山岸
桐生 2 (1515—5) 6 0 河田

金沢市立工（石川） 3—2 県立富山商（富山）
田賀 中橋 0 (4 8—1515) 2 尾崎 中川
小谷 村谷 2 (1515—6) 7 0 松島 森田
中橋 0 (1 0—1515) 2 尾崎

村谷 2 (1515—0) 11 0 中川
小中 2 (1515—6) 10 0 西村

▼決勝

金沢市立工（石川） 3—0 桐生市立商（群馬）
中橋 田賀 2 (1715 9—16 9 15) 1 小林 渡辺
村谷 小中 2 (1515—9) 7 0 内田 桐生
中橋 2 (1518—3) 15 0 渡辺

評

高体連担当常務理事 松本弘充

団体戦では戦前、高岡商、富山商と同県決勝の可能性と、総体開催決定後、強化指定校を決めて強化を重ねて来た地元桐生商、前々回優勝の北陸の雄・金沢市工等が優勝候補にあがっていた。

果せるかなこの四校がベスト4に進出した。それぞれ途中、苦戦はしたものの順当。準決勝で、金沢市工は大接戦のうち3—2で富山商に勝ち決勝へ。また、しりあがりに調子をあげた桐生市商は、全試合に出場の内田、桐生の闘志と根性によって優勝候補の富山商を一方的に破り決勝進出。決勝では頭脳的プレーと根性の切り札、小中、村谷を持ちごまとする金沢市工が、地元桐生市商をよせつけず3—0で決勝、二度目の栄冠に輝いた。

地元・桐生市商が決勝に進出したことは大会のもり上りに大きな功績があった。桐生市商の精進と努力に敬意を表したい。

個人複では尾崎・中川（富山商）が桐生市商団体決勝進出の立役者、内田・桐生をストレートで破り優勝。団体優勝の原動力小中・村谷（金沢市工）は秘術を尽くしての接戦のすえ内田

・桐生（桐生市商）の根性とファイトに準決勝で敗退した。小林・渡辺（桐生市商）の三位入賞は立派。

単では尾崎（富山商）が準決勝で内田（桐生市商）とセッティングの大接戦、しかし冷静なプレーにより決勝へ進出、決勝では舟山（秋田経大付）を一方的に破り〝二冠王〟となった。決勝に敗れたりとはいえ、舟山が、それぞれ一騎当千の安田（岐阜東）桐生（桐生市商）中川（富山商）小中（金沢市工）を破って決勝に進出した闘志と勝負強さは賞賛に価する。

全体を見渡して、北陸、東北、地元群馬の活躍が目立ち、東海、近畿がわずかに芽を出している状態で、高校男子のバドミントン現勢図はぬりかえられることなく終った。

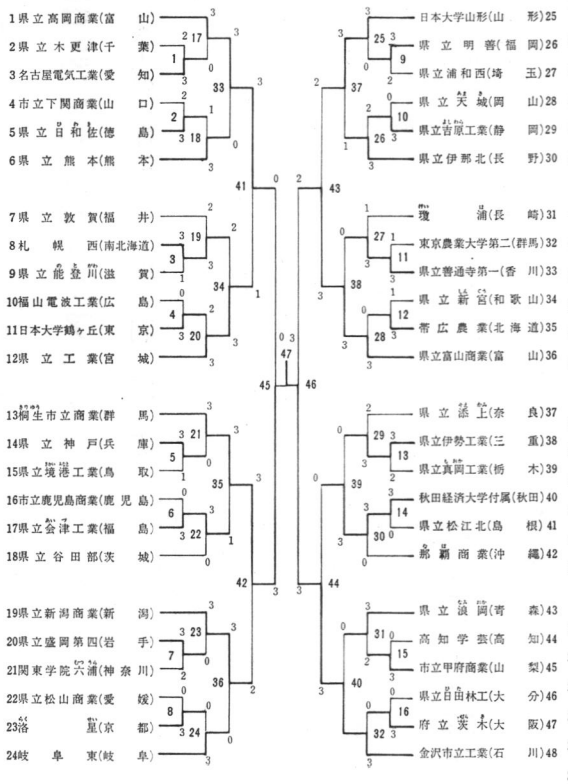
柴山、決勝で〝完全〟試合

〔女子団体〕

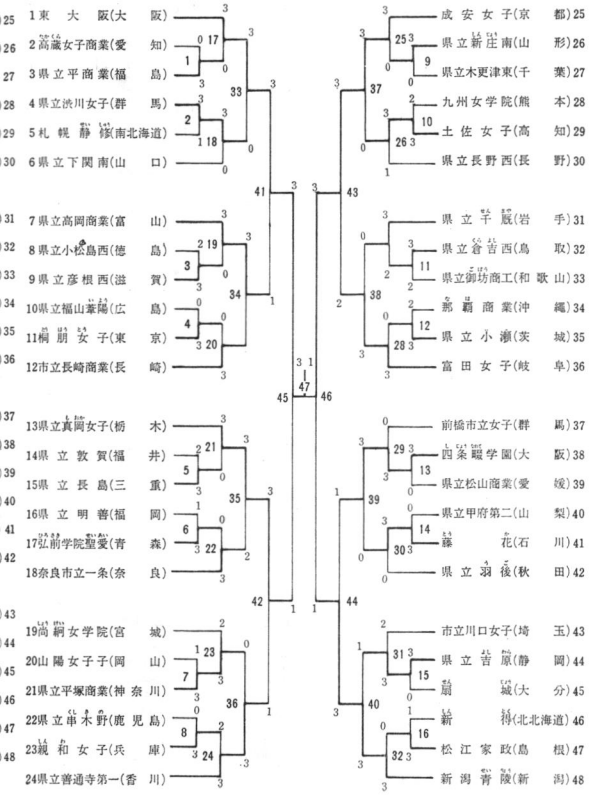
▼準々決勝

東大阪（大阪）	3－1	高岡商（富山）		柴山 2（15－0） 0 小江尻	真岡女子（栃木） 3－1 善通寺第一（香川）	阿久津 0（6 12－15） 2 森川東
大場 0（14 11－17） 2 中村		柴山 2（15－0） 0 小江尻		高崎 2（11 11－2 1） 0 小谷		
大坂本 0（14 11－17） 2 中村		高崎 2（11 11－2 1） 0 小谷		柴山 2（11 11－2 4） 0 塩崎		
石月 崎 2（15－3 5） 0 後田		藤所		阿久津 2（11 11－1 4） 0 川東		石崎 2（11 11－3 1） 0 後藤
陣内 0（8 10－15） 2 脇田		岡崎 0（3 0－11 11） 2 及川		尼崎 2（11 4 11－6 11 8） 1 脇田		田尻崎 2（15－5 6） 0 山口谷
成安女子（京都） 3－2 富田女子（岐阜）						

〈男子団体全成績〉



〈女子団体全成績〉



新潟青陵（新潟） 3—1 四条畷学園（大阪）

岩本高崎 2 — 1 餌取長崎
（12 4 15 — 1 15 5）

八幡西 2 — 1 秋尾
（11 15 10 — 15 11 15）

天野 2 — 1 秋本
（11 11 4 — 9 3 11）

岩本 2 — 1 餌取
（11 11 8 — 5 0 11）

▼準決勝

東大阪（大阪） 3—1 真岡女子（栃木）

柴山高橋 2 — 0 石崎望月
（15 15 — 2 7）



大坂本場 1 — 2 阿久津助川
（8 10 17 — 15 15 16）

柴山 2 — 1 石崎
（12 8 11 — 10 11 9）

高崎 2 — 0 望月
（11 11 — 2 1）

成安女子（京都） 3—1 新潟青陵（新潟）

陣岡内崎 2 — 0 八天幡野
（15 15 — 12）

田尻村崎 2 — 0 高岩橋本
（15 15 — 5 7）

陣内 0 — 2 天野
（7 6 — 11 11）

岡崎 2 — 0 高橋
（11 11 — 9 4）

▼決勝

東大阪（大阪） 3—1 成安女子（京都）

柴山高橋 2 — 0 田村尼崎
（15 15 — 6 1）

大坂本場 1 — 2 陣内岡崎
（8 9 15 — 15 15 9）

柴山 2 — 0 尼崎
（11 11 — 0 0）

高崎 2 — 0 陣内
（11 11 — 1 5）

評 めざましいレベル・アップ

ユーバー杯コーチ 毛利清志

団体戦は下馬評通り東大阪が抜群に強かった。勝因は佐藤監督のすぐれた指導力、高校界最高と思われる猛練習による自信エース柴山の安定した力、それに料上校長をはじめとする学校関係者のバック・アップを見逃すことはできない。技術面ではとくに守備がすばらしかった。

準優勝の成安も立派だった。その主力が二年生以下なのだから賞讃もの。三位の真岡はファイトにあふれたプレーが、そして同じく三位の新潟青陵は二年生の大型プレーヤーが印象的だった。

ことしは東大阪、成安、四条畷、奈良一条と、近畿ブロックの台頭が目ざましいが、これは同ブロックでの中体連と熱心な中学校指導者がその源をつくっているものであろう。

個人戦の柴山の単、複優勝は全く鮮やかであり、このことが柴山自身を三冠王にし、そしてその瞬間、東大阪は二年連続の三冠王になった。三冠王二連勝に、第七回、第八回に穐山先生の率いる善通寺第一が成しとげて以来二度目である。単二位の石崎（真岡）複三位の大場・坂本（東大阪）陣内・岡崎（成安）らは、いずれも将来が楽しみな選手たちだ。

全体的にみて、全国高校大会のレベルは年々いちじるしく向上しており、至るところで好プレーが相つぎ、一戦一戦勝ち進むことが、とても大変なことになった現在、上位進出を果たすためには、ますますハード・トレーニングが要求されるわけである。それを乗り越えて自らの体力と精神力に挑戦しようとする乙女達が大会に参加した選手のほかに全国津々浦々においてきょうもまた練習に、研究にがんばっていることであろう。

第五回ユ杯大会でタイトル防衛に成功した日本チームの一人一人は、それぞれ全国高校や国体で大活躍した体験者である。それを思うとき、高校のレベルが年々向上していることは〝世界の女王の座〟を守ることに直結しているわけで、まことによろこばしい。

□ □ □ □

【個人戦】

〔男子シングルス〕

▼準々決勝

小中（金沢市工） 2 — 1 岡田（天理）
（8 15 1 — 0 5 15）
棄権

舟山（秋田経大付） 2 — 1 中川（県立富山商）
（15 15 4 — 10 6 15）

内田（嗣立商） 2 — 0 牧野（日大山形）
（15 15 — 3 8）

尾崎（県立富山商） 2 — 0 村谷（金沢市立工）
（15 15 — 5 6）

▼準決勝

舟山 2 — 1 小中
（15 12 15 — 8 15 3）

尾崎 2 — 0 内田
（15 18 — 10 16）

▼決勝

尾崎幹雄 2 — 0 舟山敏彦
（15 15 — 7 4）

〔男子ダブルス〕

▼準々決勝

小中、村中（金沢市工） 2 — 0 栗栖、山岸（県立高岡商）
（15 15 — 5 7）

内田、桐生（桐生市商） 2 — 0 東浦、奥野（県立伊勢工）
（15 15 — 9 6）

運がよかった二連勝でした。私自身非常に恵まれた監督として感謝しています。私以上に指導に熱意と時間をかけ、一人で一流選手に仕立てている監督さんはたくさんおられます。

練習時間も予算も少ないやりくりチームの金沢が、なぜ優勝できたか？



金沢市立工高

河原山晴夫（男子団体）

それは県協会の協力と、優秀な先輩コーチの指導が大きかったと確信しています。

石川県はバドミントンの盛んな県で雪国のせいか室内競技のため、人気のあるスポーツです。優秀な、運動神経の発達した生徒が入部します。

加えてことしの選手たちはいままでにくらべ自主的であり研究心が旺盛でした。例年に比較して体格も貧弱であり、正直いって優勝の自信はなかったのです。しかし平素の練習は能動的であり勝利への意欲に燃えていたこと、この三点が優勝という栄冠をもたらしてくれたのでした。

金沢の二連勝は私の力ではなく、本校をとりまく環境と援取、それに協力――そのすべての人々の勝利でありました。

▶優勝監督は語る◀



東大阪高校

佐藤茂雄（女子団体）

忘れることのできぬ苦しい場面――真岡との準決勝で、絶対的な信頼を置いていた柴山が石崎と3セットの大接戦をやったこと。2セット目、汗がフロアに落ちてスリップし、右ヒザをねじってしまったのだ。6―10というマッチポイントで、私は心中「負けた」と天井を仰いだ。一瞬にして苦労が永泡に――。だが奇蹟的なことがおこり柴山は逆転したのだ。いま思い出しても冷や汗が出る。

石崎のまれに見る闘志には頭がさがった。三時間半のこの激戦は私の身も心も燃やし尽したものだった。遠井先生もまた同様な気持ではなかったろうか？

今大会、三年生の四人は実をいって満身創痍、二人が強度の貧血症と心臓弁膜症を合わせ持ち、一人はカッケであった。無傷は柴山だけ。これだけの欠陥者での優勝は選手たちの精神力の所産で、私は監督としてこの上ない喜こびを味わうことができた。勝つことは、喜こびより苦しみの方がはるかに大きいもの――を教えてくれたのだった。

日本代表がともに快勝
第二回日韓高校交歓競技会

インターハイに引き続き、八月十八、十九の両日、東京・駒沢公園体育館で、第二回の日韓高校スポーツ交歓競技会が開かれた。バドミントンからはインターハイの男子優勝校・金沢市立工と東京代表の日大鶴ケ丘の両校が出場、韓国のNO1順天高と対戦したが、両校とも韓国をまったく問題とせず、快勝した。

日大鶴ケ丘（東京代表）3（単1―1）1順天（韓国）（複2―0）

▼ダブルス

南雲文彦 市村栄文 2（15―13 15―10）0 姜日承 金正来

石川栄一 関谷啓 2（15―12 15―12）0 黄仁圭 宣永鈺

▼シングルス

南雲文彦 0（13―15 11―15 15―5）2 姜日承

市村栄文 2（15―13 15―7）0 具斉彦

第5試合は打切り

金沢市立工（日本代表）4（単2―1 複2―0）1順天（韓国）

▼ダブルス

村谷信之 小中雅樹 2（15―5 15―6）0 姜日承 金正来

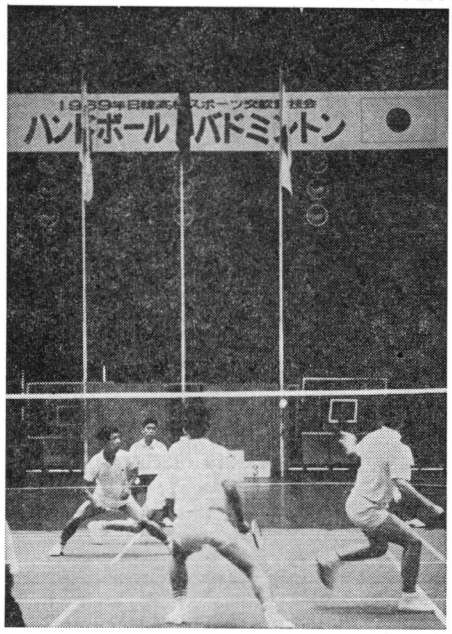
中橋友行 田貿実 2（15―0 15―3）0 黄仁圭 宣永鈺

▼シングルス

村谷信之 2（15―5 15―11）0 姜日承

小中雅樹 2（15―3 15―6）0 金正来

中橋友行 0（14―15 14―17）2 黄仁圭



地元の感激

群馬県協会理事長　増田保夫

私が一選手として参加した第一回大会以来、早や二十年。年月の移ろう早さに感慨を禁じ得ません。

市体育館を主会場に、桐生工業高校、桐生高校体育館に一千余名の選手を集めた第二十回大会が、無事終了できましたことは関係者各位の御援助の賜と、紙上を借りて心から厚く御礼申し上げます。

今大会運営上留意しましたことは、スポーツにとって重要な〝リズム〟を、選手につかんでもらうよう配慮したこと。次にとかく問題のあった審判に関して、主審、サービスジャッジ、線審の四人を全試合につけたこと、そして選手と観客の一体化を計ったことなどです。幸い関係者諸兄姉の御尽力のお蔭でいずれの試みも成功、今後のバドミントン競技の運営に新生面を開きえたと確信しております。重ねて皆々様の御支援に感謝いたします。

PTA観戦記

桐生市商父兄　桐生一生

寒冷の日、炎暑の中、厳しい練習に耐え、激烈な予選を勝ち抜いた一千余名の若人。あるものは緊張し、あるものは興奮しただひたすらに、競技の中に己れを没する姿は、人生を生き抜く姿にも似て、私の心を強くうった。

私事にわたれば、わが群馬は残念ながらバドミントンでは遅れていた。

高校総体誘致が決って以来、西巻監督を中心に必死の強化練習が続けられてきた。

三年前の新聞記事はこういっている。「上位入賞は不可能。男女ともベスト8に残れば上出来」と。だが、男子桐生商はみごと準優勝。女子渋川女も三回戦まで進出、個人でも上位入賞を果し、我々を感激させてくれた。

選手諸君は〝やればできる〟という教訓を身をもって体験したことだろう。今後の人生で、この自信と信念を生かしてくれることを、心から祈りたい。

◈　◈　◈　◈

第8回全日本教職員選手権

熊本三連勝、東京を突き放す

団体 女子は岐阜が五連勝

第八回全日本教職員選手権大会（兼第三回全日本教職員成壮年団体選手権）は八月九日から十二日まで、全国二十三都道府県から男女約二百人の選手が参加、埼玉県の上尾運動公園体育館で行なわれた。

一般男子団体では熊本が東京Aを接戦のすえ3―2で下して3連勝、女子団体はユーバー杯の高木・天野コンビを持つ岐阜が5連勝を飾り、同じく成壮年団体は岡山の2連勝となった。

個人戦の一般男子シングルスは前年三位の関一誠（早大教）が初優勝、同ダブルスは原栄一・北方匡組（石川）が第六回についで二度目の優勝となった。

一般女子シングルスは高木紀子、同ダブルスは高木紀子・天野博江組（岐阜）が、いずれも6連勝の栄冠に輝いた。

混合ダブルスは裕恵美子・清水芳隆組（富山）が初優勝し、年令別男子では三十歳以上シングルスが鈴木祐司（秋田）の5連勝、同ダブルスも鈴木祐司・脇坂安隆組（秋田）が2連勝4度目のタイトルを手にした。

四十歳以上シングルスは毛利清志（岡山）が3連勝、同ダブルスは毛利清志・山上周之組（岡山）が2連勝した。なお山上は第三回、第六回に伊藤基記と組んで王座についており、個人としては4度目。

五十歳以上シングルスは伊藤基記（熊本）が二年ぶり3度目、同ダブルスも伊藤基記・佐藤哲郎組（北海道）が二度目の王座。佐藤は第五回以降他のパートナーと組み4連勝している。

成壮年は再度、岡山へ

【男子団体】

▼一回戦
岩手5―0東京B　静岡4―1山梨
長崎5―0埼玉B　三重3―2千葉
栃木3―2福井　埼玉A4―1兵庫

▼二回戦
熊本3―2岩手　滋賀5―0神奈川
石川3―2静岡　長崎3―2大阪
東京A3―2三重　栃木キケン北海道
富山4―1群馬　岡山4―1埼玉A

▼準々決勝
熊本3―0滋賀　石川3―2長崎
東京A3―0栃木　岡山3―2富山

▼準決勝

工藤	2（15―3）	0	桶成	斉藤	0（1―15）	2	三宅
芦原	2（15―3）	0	松本	伊藤	2（15―5）	0	藤井
西南田	0（10―15）	0	北原方	佐々木三須	0（1―15）	2	柳本三宅
西田	2（15―4）	0	松本	関	2	キケン	0 小松

熊本 3―1 石川
東京A 3―1 岡山

▼決勝

南	0（17―18）	2	伊関	工藤	2（15―6）	0	原
西田	0（8―15）	2	伊藤	芦原	2（15―0）	0	佐々木
工藤	2（15―0）	0	斉藤	西田	0（4―15）	2	関
芦原	2（15―0）	0	佐々木	工藤	2（15―6）	0	伊藤
西田	0（7―15）	2	関	芦原	2（17―16）	0	斉藤

熊本 3―2 東京A

【女子団体】

▼一回戦
埼玉2―1兵庫

▼二回戦
岐阜2―0埼玉　富山2―1大阪A
長崎2―1東京　栃木3―0大阪B

▼準決勝
岐阜2―0富山　長崎2―0栃木

▼決勝

天野	2（15―5）	0	山下	高木	2（15―3）	0	徳永

岐阜 2―0 長崎

▼準々決勝
岡山3―0東京B　北海道3―0群馬
東京Aキケン静岡　大阪2―1埼玉

▼準決勝
岡山2―1北海道　大阪2―1東京A

▼決勝

西正	0（4―15）	2	北野来	天野	2（9―12）	1	徳永
毛山	2（15―4）	0	坂田斎藤	岡	1（11―6）	0	玉
毛利	2（15―7）	0	北野				

岡山 2―1 大阪

【成壮年団体】

▼一回戦
東京B2―1岐阜　埼玉2―1東京C

芦原（熊本）らに成長のあと

団体戦評　岡村英男

団体初参加の男子岩手、女子富山、静岡などの活躍、新人のはつらつとしたプレーなど、例年になく内容の盛り上がった大会であった。教員大会は、教員の技術研修の場である。従って大会全体の活気の有無よりも一つ一つの試合内容の優劣が優先する。

男子団体三連勝を果たした熊本は工藤、芦原、西田、南、本郷のメンバーで昨年同様の編成だが、芦原、西田、南に成長がみられ、単複に活躍。工藤は、大会前に身体をこわしたせいか昨年のような技の冴えはみられなかった。

熊本は昨年の福井国体教員男子の部でも優勝したが、主力工藤、芦原組のダブルスにフォーメーション・コンビネーションにやゝ難点がみられ苦戦した。今大会でも二回戦、三回戦の団体戦でも、また、個人戦でも八位内にとどまるような苦戦を免がれえなかった。今年の国体二連勝の実現もこれが課題となるであろう。

女子団体は、相変らず高木・天野の二枚看板を揃えた岐阜が五連勝を飾った。しかし、決勝で対戦した長崎は新人徳永が第一シングルスで天野とゲーム・セットまで息づまるような激戦を演じ女子教員のレベル向上を思わせるプレーを見せた。大きな収獲だった。

（次ページへ）

（一般女子）

高木・天野が六連勝

【一般男子シングルス】
▽準々決勝
工藤（熊本）2－0山谷（福井）
杉田（神奈川）2－0横田（滋賀）
関（東京）2－0伊勢田（大阪）
清水（富山）2－1原（石川）
▽準決勝
工藤 2－0 杉田
関 2－0 清水
▽決勝
関 2（1518－1113）0 工藤

【一般女子シングルス】
▽準々決勝
高木（岐阜）2－0横田（大阪）
功刀（東京）2－0大島（栃木）
裕（富山）2－0鎌田（秋田）
天野（岐阜）2－0徳永（長崎）
▽準決勝
高木 2－0 功刀
天野 2－0 裕
▽決勝
高木 2（1111－60）0 裕

【三十歳男子シングルス】
▽準々決勝
鈴木（秋田）2－0尾崎（埼玉）
北野（大阪）2－1本郷（熊本）
南（熊本）2－0黒河内（東京）
西田（熊本）2－1脇坂（秋田）
▽準決勝
鈴木 2－0 北野
南 2－1 西田
▽決勝
鈴木 2（1515－310）0 南

【四十歳男子シングルス】
▽準々決勝
毛利（岡山）2－0佐藤（東京）
平田（東京）2－0斉藤（大阪）
山上（岡山）2－0坂田（大阪）
畑（福井）2－1柳田（東京）
▽準決勝
毛利 2－0 平田
畑 2－0 山上
▽決勝
毛利 2（1515－106）0 畑

【五十歳男子シングルス】
▽準決勝
佐藤（北海道）2－1今井（東京）
伊藤（熊本）2－0橘田（東京）
▽決勝
伊藤 2（1515－22）0 佐藤

【一般男子複】
▽準々決勝
北方、原 2－0 佐々木、佐々木（秋田）
清水、正木 2－0 工藤、芦原（熊本）
三宅、柳本（富山） 2－0 佐藤、吉田（大分）
横田、藤上（岡山） 2－0 杉田、坪内（神奈川）
▽準決勝
北方、原 2－0 清水、正木
三宅、柳本 2－1 横田、藤上
▽決勝
北方、原 2（1515－103）0 三宅、柳本

【一般女子ダブルス】
▽準々決勝
高木、天野 2－0 山口、飯島（埼玉）
裕、永原（富山） 2－0 前沢、塚原（栃木）
大島、松本（栃木） 2－0 横田、内田（大阪）
徳永、山下（長崎） 2－0 功刀、市古（東京）
▽準決勝
高木、天野 2－0 裕、永原
大島、松本 2－0 山上、徳永
▽決勝
高木、天野 2（1515－50）0 大島、松本

【三十歳男子ダブルス】
▽準々決勝
鈴木、脇坂（秋田） 2－0 片岡、奈良（大阪）
小泉、坂本（東京） 2－0 尾崎、唐沢（埼玉）
北野、宝来（大阪） 2－0 遠井、神林（栃木）
南、本郷（熊本） 2－0 不破、松井（富山）
▽準決勝
鈴木、脇坂 2－0 小泉、坂本
南、本郷 2－1 北野、宝来
▽決勝
鈴木、脇坂 2（1515－39）0 南、本郷

【四十歳男子ダブルス】
▽一回戦
平田、柳田（東京） 2－0 中島、植松（静岡）
▽準決勝
毛利、山上（岡山） 2－0 三友、五十里（埼玉）
平田、柳田（東京） 2－0 斉藤、坂田（大阪）
▽決勝
毛利、山上 2（1515－22）0 平田、柳

【五十歳男子ダブルス】
▽決勝
伊藤（熊本）、佐藤（北海道） 2（1515－23）0 今井、橘田（東京）

【混合ダブルス】
▽準々決勝
春野、山下（長崎） 2－0 遠井、松本（栃木）
清水、裕（富山） 2－0 雨宮、進士（静岡）
片岡、横田（大阪） 2－0 南、堀田（三重）
中田、鈴木（静岡） 2－0 鈴木、鎌田（秋田）
▽準決勝
清水、裕 2－0 春野、山下
中田、鈴木 2－0 片岡、横田
▽決勝
清水、裕 2（1515－30）0 中田、鈴木

関（一般男）トップ杯合宿の成果みせる

個人戦評　岡村英男

個人戦では、一般男子単で、トマス杯合宿で調子をあげてきた関（東京）が、決勝で工藤を接戦の末破り初優勝した。複は、北方・原組（石川）が2回目の優勝。北方は、往年の力量あるプレーから、ていねいに相手の弱点を攻める絶妙なプレースメントにその冴えた技を見せた。

一般女子単は、高木の六連勝が実現した。しかし、決勝で高木と対戦した裕（富山）は、今年の社会人大会一位の実力通り準々決勝で鎌田（秋田）を、準決勝で天野をいずれも2－0で破り決勝に進出、高木にはポイントで11－6、11－0と一方的に破れはしたが、その内容の良さは、最近になく高木を苦しめた。クリヤーで高木を何回となく連続に後へと攻め、ドロップスマッシュで攻撃していたが、体力的には第一ゲームまでが精一杯。第二ゲームは裕の攻撃的な早いクリヤーを、高木がフォアヘドロップで落として決めるケースが多くワンサイド・ゲームとなった。

また、準々決勝の天野対徳永戦は3ゲームの接戦で一進一退の手に汗握る好試合であった。

年令別では、30歳以上男子単で鈴木（秋田）が五連勝、40歳以上単で毛利（岡山）が三連勝。30歳以上複で鈴木・脇坂組が二連勝、40歳以上複で毛利・山上組（岡山）が三連勝、50歳以上単で伊藤（熊本）が、複で伊藤・佐藤組がそれぞれ優勝と大きな変化もなかった。ただ、30歳以上単の参加者が37名あったのは、教員30歳台の充実さを示すあらわれであろう。

混合複は、申し込み数は多かったが棄権も多く、清水・裕組（富山）が一方的に勝ち進み初優勝した。

女子30歳以上単の種目を創設して5年を経過して、今年はじめてこの種目に一人だけ申し込みがあった。女子選手層の拡大を図る目的で今まで各方面に出場を呼びかけていたが、やっと実現の運びとなった。しかし、一人しか参加しなかったのはさびしい。もっと多くの選手を勧誘して、この種目の充実さを図ろう。

教員国体の実現が、いつになるかわからないが、上からの雨下り式の恩恵で全県出場を果たすのではなく、我々の着実な努力を傾注して一年でも早く教員大会全県出場を実現させよう。

技術講座

百万人のバドミントン上達法

新連載

▽▽▽

にのぞみ、右利きの自分が左利きの相手(レシーバー)に対し、ライトコートのセンター・ライン寄り、ショートサービス・ラインの近くから、フォアー・ハンド・ストロークによってサイド・ライン側に、ショート・ロウ・サービスを打ちこむといった具合である……。

サーバーはサービスに当ってその都度、以上のように慎重な判断に基ずいてより有効なサービスを打ちこむべきである。

ところで、前記のような物理的な考えの他に、どうしても忘れてはならない重要なことがある。

そしてそれは高いレベルになればなる程強調されるべき問題であり、ほとんどの優秀なプレーヤーはその研究に相当な神経を傾けているのである。それを前述の物理的な面に対して心理的な面と呼ぶことにし、それを分析して見よう。

(一)眼の位置はどこか
(二)呼吸と間合い
(三)試合開始に際して
(四)ゲーム・ポイントやマッチ・ポイントに際して
(五)自信と威圧感
(六)追う立場と追われる立場
(七)余裕とリラックス
(八)アセリと緊張
(九)自己と相手の得意、不得意
(十)サービスをどう生かすか

筆者紹介　毛利清志(四三)日体大出、協会常務理事、同指導副委員長、山陽学園高校教諭、第五回ユーバー杯コーチ

中高校編 私のトレーニング計画

遠井稔男

①

私が高校でバドミントンを指導するようになって足掛け十五年になる。真岡女子高に赴任した時クラブはなく、愛好会を結成してスタートした。体育館も用具もなく勿論予算もないので毎月の薄給をたたいて活動費に当て、練習したものである。

とにかくバドミントンができる条件が一つもなかったのである。ただ、当時からすでに全国的に卓球と陸上が知られておりこれが目標となり、励みとなった。両先生がやっているのにオレにできないはずがない、両先生に負けずにやればいつかは必らず日本一になれるとの〝ばかの一つ覚え〟を頭において三六五日一日の休みもとらず、一日平均三～四時間の練習をしたものである。

私の初当の目標は、一つに三年で県内、二つに五年で関東、三つに七年で全国をとそれぞれ制覇することであった。このように雲をつかむような目標を決心したので、やる気十分であったことを、今振返ることができる。

また、遠い夢物語にすぎないとは思わなかったことも不思議である。こんなことであったから、私の指導が非常に変則的であり、無鉄砲であったことを第三者からよくいわれた。練習といえばただ走るだけ。

土、日、祭日はバドミントンが出来る建物があると聞けば十キロぐらいは走って、二十キロもあれば自転車でネットとポールをもって練習にでかけたものである。

その結果、前記の目標を二年目、三年目、五年目にして達成したのであるから、不思議がられたのも当然であろう。

三年前体育館(八面)が落成になり、本格的に国際選手を育成しようと思っているが、学校やバドミントンの仕事が多くなり、勤務時間やガードマンの夜警やらなどで、練習時間が十分とれなくなったのも手伝って、指導が手うすになってきているのが現状である。

現場でクラブ活動による選手養成で、いろいろ悩むことが多くなってきていることも事実である。

高校に入学してきた、何も知らない、何もできない生徒を、二年半の短期間でバドミントンを教え込むこと自体に大きな問題があり、選手養成の疑問でもある。しかし、現段階においては何が何んでもやらねばならない。各人各様種々な点で差があり、長所、短所がある。

これを早い機会に発見して矯正し、補強し、より強化してやらねばやらないために、毎日、毎日、指導者自身出て、みてやる必要がある。未熟で未分化であればあるほど、手をかけ、目をかけ、難しい指導が必要なのである。

生徒あり、教師あり、選手あり、指導者ありが高校スポーツで欠くべからざる条件であることを明言したい。人間には情熱と愛情があれば、不可能なものはないと信じ、指導してきている。

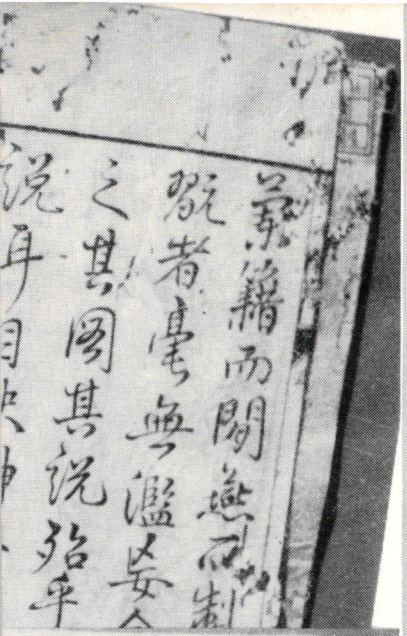
高校のバドミントン指導法ということですが、私は書くことができないので、私なりのものを記述して、全国のこの道の先輩の方々に御指導をいただければ幸甚でございます。

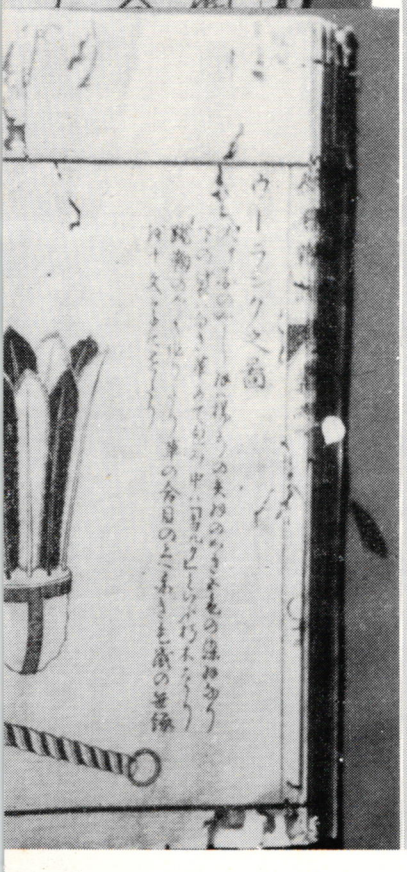
今回は年間、週計画について私のやってきたものをまとめてみました。

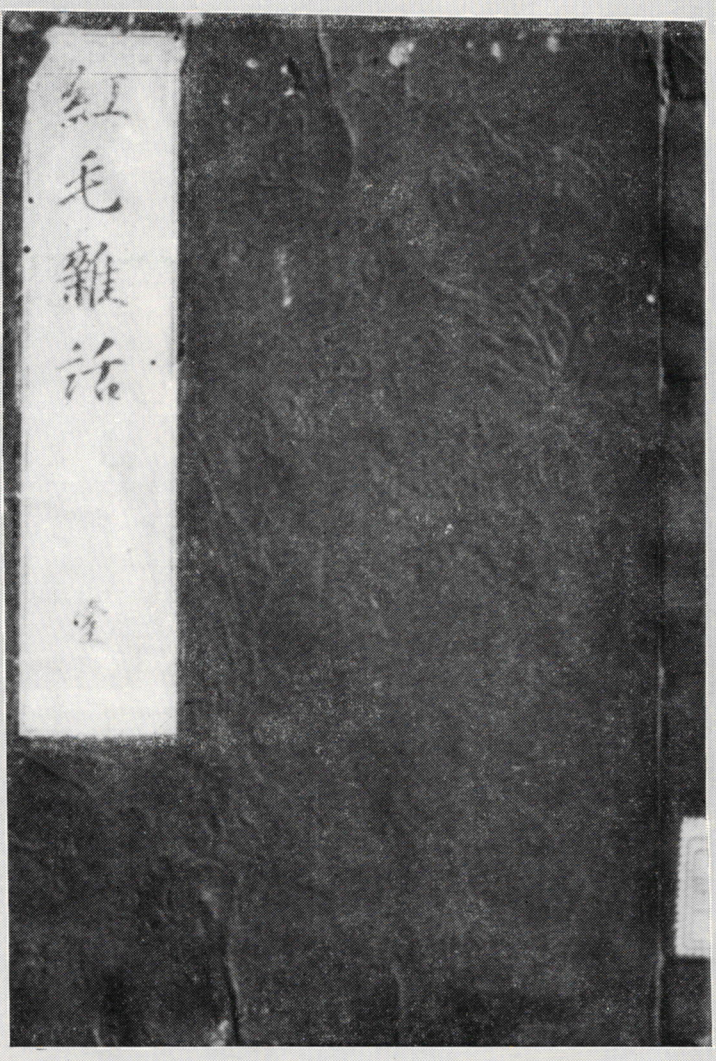
(21ページへ続く)

筆者紹介　遠井稔男(三四)日体大出、協会指導委員、高体連バドミントン部副部長、栃木県立真岡高校教諭









赤い花なら曼珠沙華、
オランダ屋敷に雨が降る――

オランダ坂の石畳を濡らした雨は、和蘭陀館の甍（いらか）にもそぼ降ったはずである。

出島の異人屋敷の小窓から、ジャガタラお春も覗いたはずだったウーラング。

発祥の地はインドといわれるが、その呼び名〝ラーク〟があやまり伝えられたというバドミントンが、英本国に渡ったのは一八四四年だった。

それより六、七十年以前、長崎の和蘭陀屋敷では、紅毛の異人さんが、シャトルコックを追っていたのだ。オドロキである。

「バドミントンは本家の英国よりも古くから日本に伝わっていた」という次第なのだ。

この証拠資料、長崎県バドミントン協会事務局長の片平直照さん（三九）が発見した。

長崎市立博物館の〝紅毛雑話〟という本のなかにバドミントンそっくりの絵と説明があり、長崎美術博物館でさらに調べると江戸時代の出島オランダ屋敷関係資料に競技の絵があった。

〝紅毛雑話〟江戸の人、森島中良（一七五四～一八〇八）が編集、その兄、桂川国端が一七八七年に刊行したものだ。

その第一巻の説明――。



◎羽子板並（ならびに）羽根
黒坊の弄（もてあそび）なり。
西洋館（でじま）にて閑暇（ひま）なる時は、遣羽子越（やりはごを）つきて遊ぶとなり。羽子板を「ラケット」といふ。羽子を「ウーラング」といふ。図形のごとし。

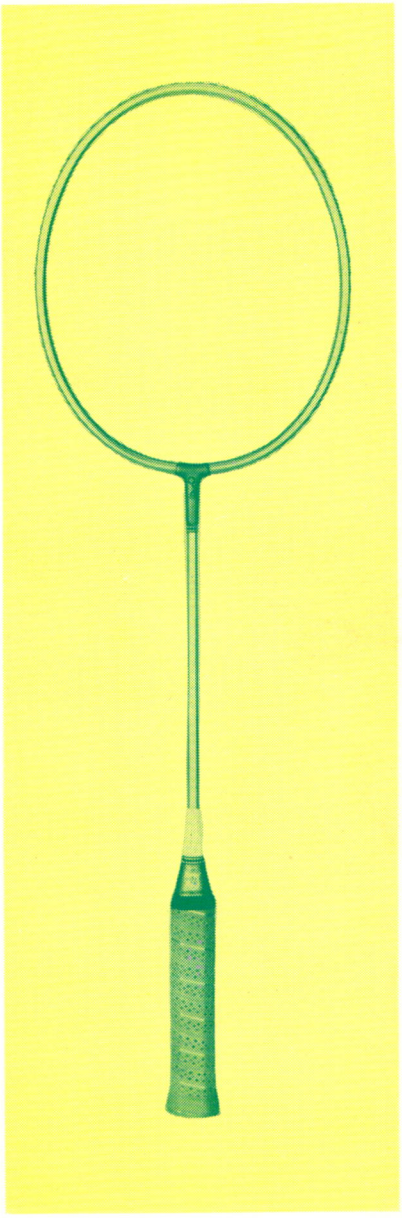
ウーラング之図
大きさ図の如（ごと）し羽根は楊弓の矢羽の如き五色の染羽なり下の袋は白き革に包み中は「キョルク」という朽木なり蹴鞠（けまり）の如く作りたり革の合目の上へ赤き毛繊（もうせん）の笹縁越（ささへりを）十文字に置たり

ラケットの図
長さ一尺七、八寸（51～54センチ）縁（へり）は曲物なり縁柄とも金唐革（きんからがわ）にて巻きたり両面とも三弦の革の如き薄皮にて又（また）アンペラにても張革にて張は古製なり

比玩器（このがき）吾家に珍蔵せる物先年田村元雄先生へおくる今彼家にあり

片平さんの調べでは、黒坊はオランダ船の人夫をしていたインド人のことらしいという。
いま、競技この図は美術館所蔵「漢洋長崎居留図巻」の中の絵巻物の中に出ている。（資料提供・片平直照氏）

今度は
シャフトがアルミになりました



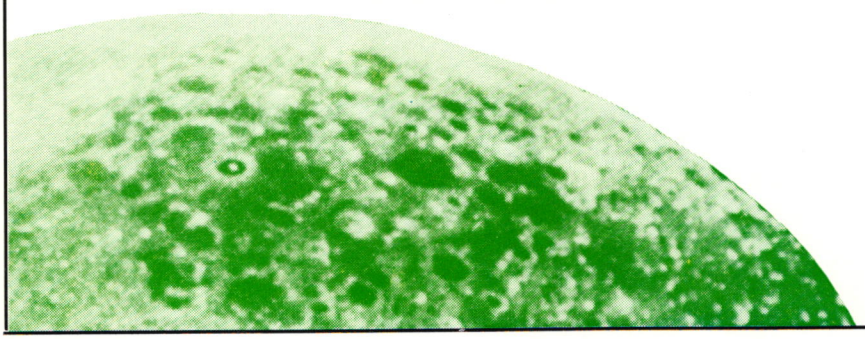
世界に雄飛する
ヨネヤマのラケット

アルミナハイパワー
NO. 8000

バドミントンでアルミシャフト
はヨネヤマが最初です。
“すばらし弾力”
あなたのスマッシューは倍の威
力で相手のコートにつきささり
ます。

￥4,000

株式会社 ヨネヤマラケット



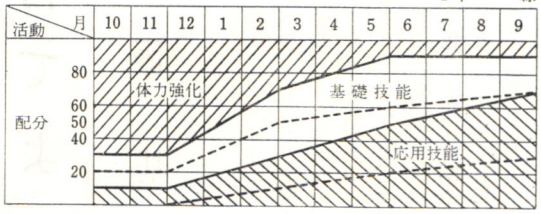
YONEYAMA

1．年間トレーニング計画表(%)　44年度

期	月		内容 体力（全身的トレーニング 専門的トレーニング）	基礎技術（基礎技術トレーニング）	応用技術（応用技術トレーニング）	学校行事・大会
一期	1	1	50	50	0	10月 国体
		2	80	20	0	
	1	3	70	20	10	11月 県総合大会
二期	1	1	50	40	10	12月 県新人戦
		2	50	40	10	
	2	3	30	40	30	3月 春休暇合宿
三期	3	1	90	10	0	4月 関東県予選会
		2	40	40	20	〃 1年入部
	5	3	10	40	50	6月 全国総体県予選会
四期	6	1	60	40	0	6月 関東大会
		2	30	40	30	8月 全国総体
	9	3	10	20	70	〃 国体関東ブロック 〃 夏休暇合宿 予選

年間トレーニング配分表

3年 ―― 線
2年 ------ 線



2．週トレーニング計画表(時間)

	活動内容	月	火	水	木	金	土	日	計	備考
オールラウンドトレーニング	筋力（瞬発筋・持久筋）	×	◎	×	△	×	○	×	3	一・二期トレーニング
	スピード	○	×	◎	×	○	×	×	3	
	心肺系持久性	×	○	×	△	×	◎	×	3	
	柔軟性	○	×	○	×	◎	×	×	3	
	練習量と時間	(中)60	(大)90	(大)90	(小)30	(大)90	(大)90	(休)0	12	
スピードトレーニング	筋力（瞬発筋・持久筋）	×	×	×	×	×	○	×	1	二期トレーニング
	スピード	○	◎	○	×	◎	○	×	5	
	心肺系持久性	×	×	○	×	×	×	×	1	
	柔軟性	○	×	×	○	×	×	×	2	
	練習量と時間（分）	(大)60	(大)60	(大)60	(中)30	(大)60	(大)60	0	9	
持久力トレーニング	筋力（瞬発筋・持久筋）	×	○	×	×	×	○	×	2	一期トレーニング
	スピード	×	○	×	×	×	○	×	2	
	心肺系持久性	○	×	◎	×	◎	×	×	3	
	柔軟性	×	×	×	○	×	×	×	1	
	練習量と時間（分）	(中)30	(大)60	(大)60	(中)30	(大)60	(大)60	0	8	
技術トレーニング	クリヤー	◎	○	○	◎	○	◎	◎	7	日は午後はゲーム 三期トレーニング
	ドロップ	○	◎	◎	○	◎	○	○	7	
	スマッシュ	○	◎	◎	○	◎	◎	○	7	
	ネット	○	×	×	○	×	×	◎	3	
	練習量と時間（分）	(大)150	(大)150	(大)150	(大)150	(大)150	(大)150	(大)180	24	

年間トレーニング計画について

1．トレーニング計画の基礎は選手の発育段階、年令、性別、その他施設や用具などを前提として、大会や行事に合せて立案する。

2．特に全国高校総体や国体などにトレーニングの山をつくり試合にベストコンディションになるよう最善の努力をしている。

3．年間のトレーニングを四期に大別して、指導内容を三段階に分けて計画している。

4．トレーニングの内容は学年別にして活動量を異にしている。
指導担当　1年生……3年マネージャー
2年生……コーチ・助手・先輩など
3年生……顧問教諭

5．生徒は中学時代にバドミントンをやってきているのが少いので1年生の時は主に基礎体力の養成が指導の中心になっており、2年生の中頃から本格的なバドミントンの技術を指導し、3年生で徹底する。

6．一　期 ⟶ オールランドの体力づくりが中心、特に2・3年はきついコート数やクラブ員数の関係で1年生がコートに入って基礎技術の習得に入る。1～3年まで持久力のトレーニング入れる。
二　期 ⟶ 専門的体力と基礎技術の習得が中心、スピードトレーニング入れる。
三　期 ⟶ 基礎技術と応用技術の習得が中心、3年生は得意技術の応用完成、1年の体力づくり徹底。リラクセーショットトレーニング入れる。
四　期 ⟶ ダブルス・シングルスのコンビとコンビネーションプレーの習得が中心。欠点補強、作戦、コンディション調整、反省ゲーム。

7．1・2年生は体力強化が年間の半分以上、3年生は基礎、応用技能にトレーニングの中心がいっている。

週トレーニング計画について

1．基礎体力・専門体力・技術練習・応用練習・作戦やルール、精神力などのトレーニングを考慮し、年間計画に基ずいて立案作成する。

2．トレーニング量は大・中・小に分ける。
トレーニング時間は下記とする

	3年	2年	1年
◎	60分	50分	40分
○	30〃	20〃	10〃
△	15〃	10〃	5〃
×	0	0	0

各学年共に体力・能力の差が大きいのでトレーニングの時間の配分を考慮する。

3．週トレーニングは年間計画の一期から四期までのトレーニングを中心として考えて計画する。

4．週トレーニングの具体的トレーニング方法は別に計画する。

5．筋力トレーニングは2～3日に1回、反射のスピードや調整力のトレーニングは疲労している状態ではあまり効果がないといった原則を考慮する。

6．オールランド・トレーニングは相当強度のものを実施している。スピード強化の計画は週5回、足のスピード・腕のスピード・からだ全体のスピードのトレーニングに分け火・金の2日をピークとしている。持久力のトレーニングはスタミナ強化を中心とし、柔軟性強化は運動量が軽いので、トレーニングの少ない木曜日に当てた。シーズン中の基礎技術の練習は毎日平均した時間を当て、日曜日の午後はゲーム練習をする。

7．トレーニングの計画も技術トレーニングの強さと関連があるので、疲労・コンディションなど十分注意して指導している。

遊びの芽を育てよう

幼少年編 ①

伊藤基記

本号に課せられた全般的な課題は『サービス』である。本格的なゲームのかけひきのスタートとしての、サービスの習得ということになれば勿論中学生ぐらいからということになるだろう。しかし、その前の段階としての「最初にバードを相手に送る」…そうして打ち合ってみる…だけのサービスがあってよいはずであり、また必要であると考えている。このサービスの芽生えも含めてこの際「タネをまき、苗を育てる時代」ともいうべき幼少年期のラケット遊びを検討してみることは賢明であろう。

考えてみるとこの世の中に忽然と出現するものはない。中学校の撰択教材に復活した、それやれといわれても、すぐにサービスがとび、ラリーがつづくというものではない。第一、幼少のころからラケット（道具）でものを扱うことになれていないから、少し体力技能に恵まれた子供達は遊びなれた他の種目に走り去ってしまう。

配給のお余りがラケット競技にというのではうだつがあがらない。全部とはいわぬ。しかし特殊の数少ない学校やクラブをのぞいては、このうだつのあがらないところを低迷していると考えてよい。私はここで眼の色をかえて野球やサッカーなどとバドミントンのヒナのとり合いをしようと力んでいるのではない。社会人のスポーツの中に、これほど愛好されるバドミントンという素晴らしいスポーツのタネが、何か因襲めいた組織や運営のために、幼少年期に蒔きつけられていない現実が我慢ならないだけの話である。

試みに写真に見られる〝ラケット遊び〟を子供たちがどんなに素直によろこんで、どんなに速やかに上達するか、瞠目されるにちがいない。握り方や振り方を口やかましくいう必要はない。遊んでいるうちに、ラケットやボール、ハネにまみれているうちに、生れるべくして正しい握り方、フォームが生れてくるのを期待するからこそ、ラケットを与えているのである。そしてその時期は、早すぎるということはない。

幼稚園や小学校の放課後の遊びの中に、ボツボツ姿を現わしていることはうれしい。が、たとえ保育園や小学校で先生方がやってくれなくても憤慨するにあたらない。バドミントンを愛好している我々が、自分の子供や身内、近所の子供にラケットやボール、シャトルを与えて相手になる時間をほんの数十分つくればよい。こういう町のクラブが、最近、各地にぞくぞくと生れる傾向にあることはうれしい。これを読んで、自分のところではこうだという記事や写真が、私のところにとどくという反応を期待してやまない。

ただこういうクラブの運動については、実際にはなかなかむづかしい問題もある。私の実験の結果としては、夏の早起、休日、冬の夜間など時間的にうまく工夫するとともに、その遊びの内容として、バドミントンまたはラケット遊びだけに終始するのでなく、キャッチボール、ドッジボール、バランスボールにトランポリン、跳箱に低鉄棒、マット運動など、色々の楽しい遊びをうまく配合した〝運動遊びクラブ〟の中にバドミントンを中心として、しだいにアップしてゆく指導者がのぞまれる。

さて、ハネをつづけて上に何回もつけるようになれば、いつの間にか、サービスの初歩をこなすようになるものである。なるべく体の側面でヒットするようにアドバイスすることが必要になる場合もある。

中学生のサービスについては高校のサービスをこれに準ずるものとして、参考にしいただけは事たりると考えている。

いつか、紙面をいただいて詳述する機会もあるだろう。

筆者紹介　伊藤基記（五五）東京高師出、協会常務理事、同指導委員長、熊本女教授、第四回トマス杯日本チーム・コーチ





短かい柄のラケットに風船、これなら大ていの坊やがつづけてつける。真剣な子供なりに、統一された表情をごらん下さい。

坊やが構えているところにうまくお母さんがなげてやる。親子がはだを通して愛情をきずく時間である。

私の場合



あまりにも楽しい

好敵手と先輩に恵まれて

【読切連載　第一回】

慶大OB
伊藤忠商事　越川　啓

「なぜバドミントンをやり始めたんだ？」という質問をよく受けるけど、これはただ「好きだったから…」としか答えようがない。スマッシュが決まれば気持いいというようなものじゃなく、ただラケットを持ちシャトルを打つことがむしょうに楽しかった。

関東学院の高校一年の時にやり始めたが、中学の時は卓球をやっていた。当時、関東学院はインターハイに二連覇していたし、強いものに対する憧れの気持もあったように思う。

あれは二年生の時、始めて善通寺（香川）のインターハイに出て団体で四位になった。そして三年の新庄（山形）では決勝で北海高に負けたが二位。さらに印象が深いのは慶応に入って一年の時、京都のインカレで岡（現東急）と組んでダブルスに優勝したことだろう。二年の時も石田と組んで優勝している。



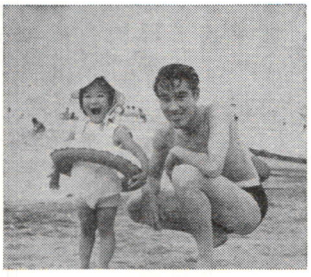
一番印象に残る選手は立教の片石（現ベニヤ）。ほんとうの意味の好敵手で、この人にはついに一度も勝てなかった。

これは僕が攻撃型のタイプであり、片石の脚がよく、そのせいでレシーブが非常にうまかったことが、勝てなかった原因のように思う。

従って僕の場合、ダブルス・プレーヤー向きにできていたようだ。

大試合としては、昭和三十二年トマス杯代表に選ばれて、川端監督（現理事長）とセイロンに遠征し、立教の佐藤芳朗先輩（現協会常務理事）と組んでダブルスに勝ったこと。この時は外貨の関係で二回戦にタイと当ることになっていながら、棄権してチャンスを失ったのは残念だった。しかし翌年のアジア大会では、やはり佐藤先輩と組んでダブルスに勝った。僕としては先輩や同僚それに好敵手に恵まれていたようだ。

僕は自分でも思うが早いテンポのバドミントンをやるから攻撃には向くが防御に弱い。いいレシーブをする人と組めばやりやすかった。主武器として自信があったのは相手のフォアに決まるストレートのスマッシュ。



《筆者近撮》

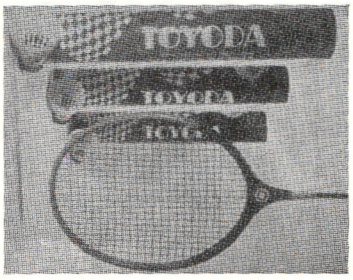
僕自身、バドミントンをやってほんとうによかったといえることは、忍耐力ができたこと、さらに協調性がよくなったという二点。これが大いにプラスになっている。戦績からいって自分は決していい選手ではなかったが、いい先輩に恵まれ、もまれたことで、三十三才になったいま楽しかった想い出だけが残っている。

「僕はしあわせ者だ」と、しみじみ感じるのである。

最後にひとこと――。

僕はよく「パートナーがミスして負けた時、カッカときたりクサったりしないか？」と質問される。非常に生意気に聞こえるかわからないが、僕はいつも「ミスしたくてやってんじゃない、だれでも勝ちたい。勝とうと思ってやっていることだから…そんなことはない」と答えることにしているが、それは僕が自分でレシーブに弱いということを知っていたからで、自分のバドミントンを知ることが一番大切じゃないか――ということを強調したいと思う。

□ □ □ □



TOYODA

株式会社 トヨダスポーツ
住所　東京都台東区浅草橋５－２６－７
TEL　（８５１）９４０９・（８６６）２５１５

○● 東京、山梨、神奈川 ●○

一般男子は三つどもえ

国体展望　共同通信　竹市行男

第二十四回国民体育大会は、十月二十六日から長崎県諫早市で開かれる。第五回世界女子選手権大会の初防衛に成功した直後だけに日本、地元協会、参加選手ともに〝やる気〟十分。消息通によると『かってないほど気力、技術に充実した大会はないだろう』といわれる。過去の実績、最新の情報から予想を立ててみた。

■一般男子■

優勝争いは昨年優勝の山梨、二位神奈川、三位東京だ。山梨は秋山が健在。トマス杯予選、対香港戦に個人的理由で欠場したが、技術、体力面ではまだ一線級。経験、カンがいいだけに活躍が期待される。

対抗は昨年同様神奈川。小島が最盛期。秘かに世界一をねらうと意気込んでいるだけに練習量は十分だ。この大会でも相当の好プレーを発揮しそう。若手の渡辺もいい。第一次トマス杯合宿でしごかれ、プレーにスジが通った。だがベテラン相手にどこまでやれるか。東京は堺、西野、関とコマ数が豊富。しかし中心の堺に一時のサエが見られないで気がかりだ。伏兵は新潟。複にうま味を見せる大竹、日大優勝の主役、伊藤と若手同士。どこまで古豪勢に食い込めるか見もの。調子の波に乗れば大物を食いそうだ。

■一般女子■

高木、天野の岐阜が圧倒的に強い。高木は『備えは万全。自分の持っているもの全てを出したい』と語っている。埼玉国体での〝ポカ〟を反省し、自己の試合運びを見せよう。二人のイキは学生時代から。複でも第一人者の技倆をコート上にくり開げそうだ。ともに国際試合の経験が深い二人だけに、どの試合も味のある一見に価するものと期待される。ライバルは東京。高木は『高橋さんがこわい』と今からマークしている。だが東京にも弱点がある。複の好パートナーがいないことだ。そのため迫力がもうひとつ鈍る。

■教員男子■

熊本の二連勝有力。石川、神奈川が続くだろう。

■高校男子■

北信越ブロック予選で、富山商）石川（金沢市工が団体優勝）がつぶれ、新潟が代表となった。この新潟（県高、暁星、新発田商工の連合軍）と高校総体の地元群馬が対決しそうだ。

■高校女子■

柴山、高崎の二枚看板を持つ大阪が一頭地を抜いている。栃木が追うが、大阪の堅塁を崩せまい。昨年二位香川は絶望的？

国体代表出そろう

◇一般男子◇

▼北海道＝〔監〕西野泉三〔選〕岩崎昭郎、中村富光、土江田忠〔道選手権〕▼単決勝＝土江田（地崎商事）2－0福島（札鉄）▼複決勝＝岩崎・中村（地崎商事）2－0福島・渋井（札鉄）

▼青森＝〔監〕市川和司〔選〕神隆、小山内信一、福井正志

▼岩手＝〔監〕太田信雄〔選〕金原良史、吉田貫、伊藤誠

▼宮城＝〔監〕植野策千〔選〕市川清、古橋政紀、今野一男

▼秋田＝〔監〕松橋裕〔選〕三国屋茂、菅偕和、根津谷礼蔵

▼福島＝〔監〕布引修二〔選〕須藤博、宗像津良、菊地義郎

▼山形＝〔監〕板垣隆房〔選〕郷野隆弘、沼沢利一、安達敏一

▼千葉＝〔監〕高橋重夫〔選〕周東和之、森澄健夫、北見恵一

▼神奈川＝〔監〕船山誠義〔選〕小島一平、渡辺直人、坂本聖二

▼群馬＝〔監〕増田保夫〔選〕浅野佳夫、稲村浩、鈴木正造

▼東京＝〔監〕清水善一〔選〕堺栄一、西野一征、関一誠

▼栃木＝〔監〕松本弘充〔選〕霜山満、柳沢一、谷畑清

▼茨城＝〔監〕野中正稔〔選〕早川博、福田喜代志、佐藤紘介

▼山梨＝〔監〕田村博〔選〕窪田恵三、秋山真男、野田秀応

▼埼玉＝〔監〕大須田良作〔選〕森谷喜久男、星野義昭、中山広明

▼新潟＝〔監〕大里俊一〔選〕大竹紘一、伊藤喜和、捧勇

▼長野＝〔監〕上条炳〔選〕那須義博、伊藤尚臣、原田豊

▼静岡＝〔監〕岡徹〔選〕日下部敏弘、平野孝雄、大石勝信

▼岐阜＝〔監〕谷亮〔選〕上原章、安藤義治、奥田繁雄

▼愛知＝〔監〕後藤守〔選〕安沢武司、樋口一春、武田正雄

▼福井＝〔監〕梶谷将人〔選〕寺崎由雄、府岡弘、笠川俊教

▼石川＝〔監〕新田正治〔選〕松下（旧姓沢田）力、黒田博、安江勉

▼富山＝〔監〕中山邦夫〔選〕高林弘則、河村博之、関村順治

▼奈良＝〔監〕岩井由治〔選〕野村安忠、河村憲一、西野勇

▼三重＝〔監〕伊豆晃〔選〕増井孝夫、山口香、小林信之

▼京都＝〔監〕川本末夫〔選〕竹山重夫、福井達雄、高木金次

▼滋賀＝〔監〕寺田寿〔選〕西川伊平、西原四郎、村山守

▼大阪＝〔監〕青木昭二〔選〕久保川正啓、加藤彰、遠藤和男

▼和歌山＝〔監〕吉田健次郎〔選〕土田行夫、厚地收、坂本拡貴、芳上一男、上野輝治

▼岡山＝〔監〕虹江優〔選〕小松土井弥一、友金利一、並木良夫

▼兵庫＝〔監〕坂田正美〔選〕加藤喜正、古川晃夫、小松征夫

▼鳥取＝〔監〕倉光忠雄〔選〕田稔和、杉原邦彦、矢野信夫

▼広島＝〔監〕豊田覚〔選〕多末広秀樹、河添忠雄、石川好夫

▼島根＝〔監〕森山民治〔選〕山本一夫、船江昭浩、安達真也

▼山口＝〔監〕松村哲幸〔選〕浜中誠、三好勝利、早瀬武臣

▼徳島＝〔監〕野村淳平〔選〕吉田栄助、吉坂嘉起、星加忠弘

▼福岡＝〔監〕成井政一〔選〕阿部正信、吉川和孝、岡崎和良

▼高知＝〔監〕山本邦彦〔選〕武村守城、豊島知章、浜田幸男

▼愛媛＝〔監〕野村一弘〔選〕秋山晴一、元重邦博、銘刈秀昭

▼香川＝〔監〕野口利行〔選〕春武俊一、宮原秀三、佐藤国晴

▼大分＝〔監〕田中大也〔選〕

▼佐賀＝〔監〕東田多美男〔選〕中尾守、高柳静夫、渕上征人

▼宮崎＝〔監〕北崎博国〔選〕松本行弘、小倉文雄、徳永英敏

▼長崎＝〔監〕山口征一郎〔選〕前田国臣、山口敏弘、松野勲

▼**熊本**＝〔監〕西岡弘一〔選〕野々口清介、西岡一造、宮本英記

▼**鹿児島**＝〔監〕篠田守夫〔選〕厚ケ瀬秋義、藤本滋、井手一郎

▼**沖縄**＝〔監〕兼島信夫〔選〕宮井文彦、与儀幸治、宜志富紹英

◈一般女子◈

▼**北海道**＝全道一ブロック〔監〕今井恵子〔選〕清水敏子　丹野美知子、斉藤まり子〔道選手権〕▼単決勝＝丹野（地崎商事）2―0清水（地崎商事）▼複決勝＝清水・丹野（地崎商事）2―0谷浦・松田（サンスポ）

▼**東北**＝岩手が代表　岩手2―0山形　秋田2―0青森　山形2―1福島　秋田2―0宮城

〔監〕白沢国雄〔選〕斉藤せつ子、寺島悦子、及川恵子

▼**関東**＝東京が代表　群馬2―0千葉　神奈川2―0埼玉　栃木2―0茨城　東京2―0群馬　栃木2―1神奈川　東京2―0栃木

〔監〕三須徳次〔選〕高橋とも子、田中美津江、水野小夜子

▼**北信越**＝新潟が代表　新潟3―0長野　富山2―1石川　新潟2―0石川　富山3―0福井

〔監〕佐藤秀夫〔選〕後藤和子　五十嵐明美、渡辺京子

▼**東海**＝岐阜が代表　岐阜2―0三重　岐阜2―0愛知　岐阜2―0静岡　岐阜2―0静岡　愛知2―0三重

〔監〕天野鎮一〔選〕高木紀子　天野博江、高橋千代美

▼**近畿**＝京都が代表　京都3―0和歌山　滋賀3―0奈良　京都2―1大阪　兵庫2―1滋賀

〔監〕岡本宏也〔選〕永井かおり、山下三枝子、岡崎繁子

▼**中国**＝岡山が代表　岡山2―1広島　山口2―1鳥取　岡山3―0島根　取3―0島根　岡山3―0島根　山口2―1広島　岡山3―0山口　広島2―1鳥取　広島2―1島根　鳥取2―1島根

〔監〕橋本千代子〔選〕光畑直美、木村宣子、鈴木直美

▼**四国**＝香川が代表　香川3―0高知

〔監〕香西章〔選〕山本真江、細川泰子、綾井美津子

▼**九州**＝福岡が代表　福岡3―0大分　宮崎3―0佐賀　福岡2―1鹿児島　福岡2―0宮崎

〔監〕渕上英紀〔選〕筒井百合古賀幸子、丸山富江

▼**長崎**＝開催県

〔監〕喜多昭夫〔選〕山崎あけみ、山崎はるみ、大渕秀代

◈高校男子◈

▼**北海道**＝全道一ブロック〔道選手権〕▼単決勝＝浜本（札工）2―1中村（札一）▼複決勝＝土江田・青木（札西）2―0山田・板本（羽幌）

〔監〕森正三〔選〕浜本栄治、土江田真一、青木健治

▼**東北**＝宮城が代表　宮城2―1秋田　秋田2―0青森　宮城2―0山形　山形2―0福島　福島2―0岩手

〔監〕永元敬二〔選〕牛渡直人　志子田勝俊、渡辺正喜

▼**関東**＝群馬が代表　東京2―0茨城　茨城2―0千葉　群馬2―0神奈川　栃木2―0埼玉　山梨2―1東京　群馬2―0栃木　梨2―0山梨

〔監〕西巻育夫〔選〕内田通夫　渡辺稔、桐生台次郎

▼**北信越**＝新潟が代表　石川2―1富山　新潟3―0福井　新潟3―0長野　新潟2―0石川

〔監〕阿部孚〔選〕本間亨、小泉司、九原正敏

▼**東海**＝静岡が代表　三重2―0静岡　岐阜2―1愛知　岐阜2―0三重　静岡2―0愛知

三重2―1愛知　静岡2―1岐阜　この結果、三県同率のため決勝トーナメントを行ない　三重2―1岐阜　静岡2―0三重

〔監〕七沢宏光〔選〕山崎登志夫、山崎和之、秋山幸光

▼**近畿**＝奈良が代表　奈良3―0福井　新潟3―0長野　奈良3―0和歌山　滋賀　大阪2―1京都　奈良2―0大阪　大阪3―0兵庫

〔監〕谷口章〔選〕岡田昇久、山本繁幸、菅原弘貴

▼**中国**＝岡山が代表　岡山2―1鳥取　島根2―1鳥取　岡山2―1山口　島根2―1山口　岡山2―1広島　島根2―1広島　岡山2―1島根　広島3―0島根　取2―1鳥取　広島3―0山口

〔監〕小原建吾〔選〕斉藤敏行　片岡忠明、田村学

▼**四国**＝香川が代表　香川3―0高知　愛媛2―1徳島　香川2―0愛媛　徳島3―0高知

〔監〕鎌田紀夫〔選〕高尾博、小田恵、日下昇

▼**九州**＝熊本が代表　熊本2―1鹿児島　福岡2―1大分　熊本2―0福岡

〔監〕本郷節生〔選〕加治屋博文、築山元博、浜田泰之

▼**長崎**＝開催県

〔監〕中里克彦〔選〕一ノ瀬通大東歳文、佐蔵彰

◈高校女子◈

▼**北海道**＝全道一ブロック〔道選手権〕▼単決勝＝岡本（札北斗）2―0今川（札静修）

〔監〕横山俊之〔選〕岡本雅子　松本節子、今川喜佐子

▼**東北**＝山形が代表　山形2―0秋田　宮城2―1福島　山形2―0青森　宮城2―1岩手

〔監〕菅野悦正〔選〕名和和子　岡村列子、甲洲香

▼**関東**＝栃木が代表　栃木2―1神奈川　群馬2―0埼玉　千葉2―0東京　山梨2―0茨城　栃木2―0群馬　山梨2―0千葉　栃木2―0山梨

〔監〕遠井稔男〔選〕石崎茂子　望月しづか、阿久津まさ子

▼**北信越**＝新潟が代表　富山3―0福井　新潟3―0長野　新潟3―0石川　新潟2―0富山

〔監〕後藤靖男〔選〕高橋映子　岩本恵理子、天野広美

▼**東海**＝岐阜が代表　岐阜2―0愛知　静岡2―0三重　岐阜2―0愛知　静岡2―0愛知　岐阜2―1静岡　愛知2―1三重

〔監〕野村博〔選〕及川恵子、脇田和子、紅谷島子

▼**近畿**＝大阪が代表　大阪3―0滋賀　京都2―1奈良　大阪3―0兵庫　京都3―0和歌山　大阪2―0京都

〔監〕佐藤茂雄〔選〕柴山きよ子、高崎弘子、大場照美

▼**中国**＝岡山が代表　岡山2―1山口　島根3―0鳥取　岡山3―0広島　島根2―1山口　岡山3―0鳥取　島根3―0広島　岡山3―0広島　鳥取3―0広島

〔監〕山上周之〔選〕吉田孝子　坪田久仁子、延原美和子

▼**四国**＝香川が代表　香川2―1愛媛　香川2―0高知　愛媛2―0徳島

〔監〕喜岡恒雄〔選〕後藤幸文　川東秀美、森清美

▼**九州**＝大分が代表　大分3―0熊本　福岡3―0鹿児島　大分2―0福岡

〔監〕田丸俊也〔選〕土屋晴美　田中みゆき、中島千代子

▼**長崎**＝開催県

〔監〕稲田勝〔選〕坂口サエ子　高木令子、宮田由美子

◈教員男子◈

▽**北海道**＝全道一ブロック〔道選手権〕▼単決勝＝杉田（手稲中）2―1阿部（沼尻小）▼複決勝＝杉田・安達（札幌）2―0阿部・宮崎（函・札）

〔監〕高橋昌久〔選〕杉田茂良　安達惟彦、宮崎岩次

▼**東北**＝宮城が代表　宮城2―1岩手　秋田2―0福島　宮城2―0山形　青森2―1秋田　宮城2―0青森

〔監〕加茂和夫〔選〕渡部紘一　鬼宗利、白岩良治

▼**関東**＝神奈川が代表　神奈川2―0栃木　山梨2―0茨城　東京2―1群馬　埼玉2―0千葉　神奈川2―1山梨　埼玉2―0東京　神奈川2―0埼玉

〔監〕高橋正宏〔選〕杉田博、坪内三郎、坂本正樹

▼**北信越**＝石川が代表　富山2―1福井　長野2―1新潟　石川2―1長野　石川2―1富山

〔監〕中島寿禧〔選〕北方匡、原栄一、村西一

▼**東海**＝静岡が代表　三重2―0愛知　静岡2―0岐阜　三重2―0岐阜　静岡2―0三重　愛知2―0岐阜　静岡2―0愛知

〔監〕藤江稔〔選〕中田稔、佐野和夫、斉藤俊仁

▼**近畿**＝大阪が代表　滋賀3―0奈良　大阪3―0和歌山　滋賀2―1兵庫　大阪2―0滋賀

〔監〕大河内秀夫〔選〕酒井明夫、伊勢田善昭、杉田忠邦

▼**中国**＝岡山が代表　岡山3―0山口　山口2―1鳥取　岡山3―0島根　山口不戦勝島根　岡山3―0鳥取　島根3―0鳥取

〔監〕高田浩二〔選〕毛利清志　三宅勝、柳本堯敏

▼**四国**＝香川が代表　香川3―0愛媛　愛媛3―0高知

〔監〕地下義文〔選〕森田桂示　藤原和文、新名教男

▼**九州**＝熊本が代表　熊本3―0鹿児島　大分2―1福岡　熊本2―0大分

〔監〕南直治〔選〕西田寿明、工藤勇参、芦原健身

▼**長崎**＝開催県

〔監〕小山祐則〔選〕香島正佳　松田克彦、春野良三

ホープ登場

がんばれ オリーブちゃん

東大阪高　柴山きよ子

東大阪高は、栃木と並ぶ〝特訓〟の有名校と聞いた。

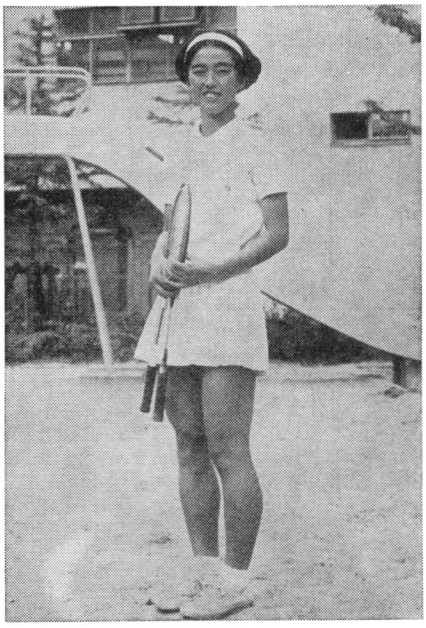
「本気でなぐるんですよ。ピシャッと。痛いですよ。さァ、一年間に何回なぐられるか、おぼえてません」

なぐるのは鬼監督佐藤先生。なぐられるのが〝オリーブちゃん〟こと柴山きよ子選手。

学校での愛称は〝シバ〟、それが、ことし春のユーバー杯代表選手の長崎合宿に、唯一の高校生代表として参加。長崎商高の稲田先生が「なんとまあ細いポパイに出てくるオリーブだ」といったことから、ニックネームになった。

163㌢、48㌔――「なんだ蚊トンボじゃないか」協会の佐藤常務理事がいうとおりだ。

東大阪は名門である。昨年の広島総体で三冠王となり、ことしまた三冠を果した。二年連続はバドミントン有史以来の快挙である。柴山はその立役者である。本人もシングルス、ダブルス、団体で優勝しているから個人でも三冠王だ。



コートに立つとかぼそいオリーブちゃんはぐっと大きく見える。まったく落ちついた試合運こび、ピンチに立っても動じないところはユーバー杯の女王、高木紀子さんばりである。総体の団体戦の準決勝で強豪真岡高と対戦した時、ファイナルセットで10－6とリードされた。あと1点で敗戦である。

しかし、オリーブちゃんは奇跡の逆転勝ちをやってのけた。

「負けるはずがない。そういいきかせながら、あとはもう無我の心境。ただシャトルを打つことだけに熱中しました」というのだが、最初入学した時は「こんなにヘタクソな選手がいるんかいなと思いました」（佐藤監督）オリーブちゃん。「それが見る見るうちに上達して……」いまや佐藤監督も全幅の信頼を寄せている。

「夢ですか？ユーバー杯に出場することです。趣味？ない。ほかにやりにいことといってもヒマがないし……。練習ですか？きついですよ。なんべん、もうやめたろかとおもたかわかれへん。そやけどまた佐藤先生になぐられるさかい、そうもいかへん……」

明朗快活な十七才である。

ヒマがない道理だ。毎日、奈良県郡山市郊外からの通学は片道だけで二時間かかる。帰宅は夜の九時すぎだ。「帰ったらグタッとして、もう寝るだけが楽しみ」そんな特訓のなかから育ってきたのだ。奈良市の病院につとめる母親まつえさんと母娘だけの暮し。来年、卒業すると東大阪女短大へ進む。

「優勝してうれしかった？」と聞かれて、オリーブちゃんはニッコリ笑って答えた。

「そら、うれしいですよ。去年は泣いたけど。ことしはお母ちゃんが泣いてはった」

世評では「高木以来の大物」といわれている。

その高木先輩はこう忠告していた。「まったく素質としてはいいものを持っています。ただこんご、その素質をどう伸ばして行くかが課題。まっすぐ伸びれば申し分なし、いい選手になります」ガンバレ！オリーブちゃん。

（日刊スポーツ　盛川　宏）

HATACHI
SHUTTLECOCKS
日本バドミントン協会公認
日本一の生産量を誇る
羽立工業株式会社

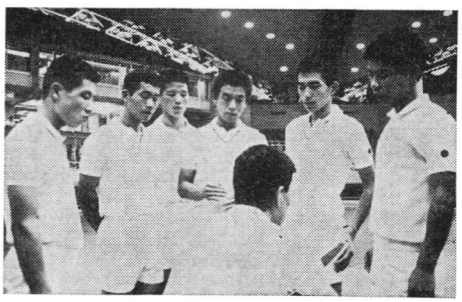
■本　社
静岡県浜名郡湖西町新所3 郵便番号・431-04
TEL　湖西〈05359〉6－1501　（代表）
■東京営業所
東京都台東区蔵前3-10-7 郵便番号・111
TEL　東京〈03〉861－2777　（代表）

学校訪問

〝サーカスの象〟になるな

金沢市立工と河原山監督





石川県金沢市立工高は、河原山晴夫先生（35）が監督になってから、アッという間に強くなった。着任は昭和三十九年春。同時に先生は、それまであった女子だけのバドミントン部を解体、男子に〝性転換〟してしまった。

「いやあ、とにかく、女はニガ手なもんですから」それだけの理由で？と突っ込むと「女子は〝公私混同〟が多くて、孝えるのにこまる」という答がハネ返ってきた。

話を本筋に戻す。男子部が誕生して三年目、四十一年にはインターハイ（全国高校選手権）で県代表に。このときは二回戦で敗退したが、翌四十二年は全国優勝、昨年二位、そしてことしが二度目の栄冠。五年にして高校界に不動の地位を築いてしまった。

その秘密―それは学業優先。試験前は一週間、大事な大会前でも、必ず週に一日は練習を休む。

「練習量は他校の三分の二くらいでしょう。ウチは工業専門なんで実験の宿題なんかが多く実際上、そうバドミントンに時間をさくわけにもいきません。練習ですが。夕方四時から七時ぐらいの間ですね」

つまり一日平均三時間。その半分の時間を、基本練習に費やす。そして、体力づくり。一年生は、八月まで決してラケットを握らせてもらえない。ランニング、サーキット…「バドミントンは腕ではなく、足腰のスポーツですからね。器用だけではつとまりません」

練習は日常生活の中にある、と先生はいう。たとえば、ビールビンに砂をつめて、手首を強くする運動。こんなことまで練習場に来てやることではない。その気があれば、家の中で、テレビを見ながら、本を読みながらでもできるだろう……。

それにしても、と河原山先生「県協会主催で週に二回、社会人選手も出る〝合同練習〟というのがありましてね、これに参加しているおかげで、私たちはずいぶん助かっているんです。試合の経験も大切ですから」

試合でのモットーは「ファイン・プレーの1点は、凡ミスの1失点にひとしい」いいカッコするな、まじめにやれということだ。

強くなると、いい選手が集まってくるでしょう？と質問してみた。「そりゃ、そうです。しかし、こういうことはいえますね。運動神経のいいやつは根気もいい。だから早くうまくなる素質のあるなしですか、一年の体力づくりの段階で、すぐわかります。

生徒にいつも、いっていること――サーカスの象になるな。みずから、やる気をおこせ。道は開ける。楽ばかり望むな。

本誌を通じて訴えたいこと―シャトルが高いでしょ。国産のニワトリのハネかなんかで、いいもの、つくれないですかね。これ強調して下さいよ。

（東京新聞　後藤忠弘）

日本で最初のオールスチール製ラケット
信用あるSPORTS このマーク

大阪 大阪合繊株式会社 東京

★☆★☆★☆★☆★☆★
スポーツとファッション
白いおしゃれ

報知新聞　吉広紀代子

スカート丈が短かくなって、ミニへの抵抗感がなくなったと思うと、こんどはぐっと膝下まで長くなるという。めまぐるしい程、変化する女性ファッション界だが、コートの中のスコートは短かくなることはあっても、長くなることはなさそうだ。競技中の女子選手の動きの中で生まれるスコートの舞い。カラフルではなく、ただ白一色であるのに実に美しく目にうつるのは、やはり自然の動きがともなうからであろうか。

バドミントンの女子選手がショートパンツからスコートへ変わったのは一九六六年、日本がユ杯初参加でニュージーランドへ遠征し、世界チャンピオンになった時からだ。遠征前、東京・戸塚の早大記念会館で合宿中のチームを取材した時は、全員ショートパンツでボーイッシュに見えたが、遠征中、ニュージーランドからの電送写真を見ると全員スコートになっているので、おやおやと思ったものである。

帰国後、高木主将に聞くと、それ以来、国内の大会でもスコートがあっという間に広がり、今では女子選手はスコートが当たり前になってしまったという。動きやすいという重要な理由もあるだろうが、そこはやはり女性、競技中も少しでも美しくありたいと願ってのことだろう。巻きスコートあり、プリーツ、フレヤーと、それだけの好みに合わせたデザインで、スソに刺しゅがあったりなにげないおしゃれごころがしのばれる。

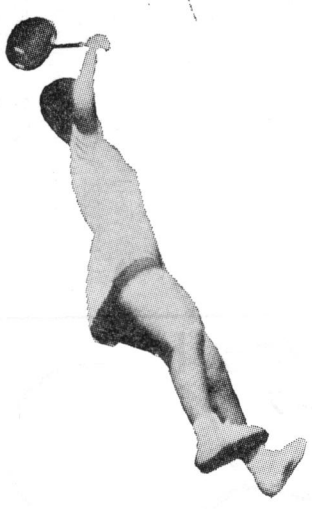
六月のユ杯はイギリスの選手が、スコートのスソとシャツの衿、袖口を細い赤や紺のラインで統一させたり、アメリカの選手はプレスレットをヒジの上につけたり、スコートの下をカラーのショーツで飾ったり、ポイントのおしゃれをしているのが目についた。

ファッションでは伝統的に他の競技をリードしているテニスは、目下ワンピースが圧倒的だ。イギリスにはテニス・ウェア専門のデザイナーがいて、ヨーロッパへの遠征する日本の女子選手は、まず外国選手のファッションへの強い関心に驚くという。

デザインも豊富で、その上テープや飾り、刺しゅうをとり入れて、汗を流すには惜しい気がする程こっている。スカートの下にもフリルのついたショーツがかくされていて、サービスやスマッシュの時、男性はボールよりもスカートの方へ目をやるそうだ。毎年ウィンブルドン全英選手権では、試合前にファッション・ショーが開かれ、女子選手だけでなく期待している男子も多いという。

しかしバドミントンもテニスも日本はヨーロッパに比べるとまだ質素だ。「スポーツに色気としゃれ気は禁物」と公然といわれ、おしゃれを罪悪視する風習があるからだろう。だが、そんなことをいう人が大会になると堂々と観客から入場料をとっているのだ。他人に見せる以上、高度の技術はもちろんだが、やはり着て、見て楽しめるファッションも必要だろう。試合にもおしゃれにも、さらに強くなれば見る側の楽しみもふえる。

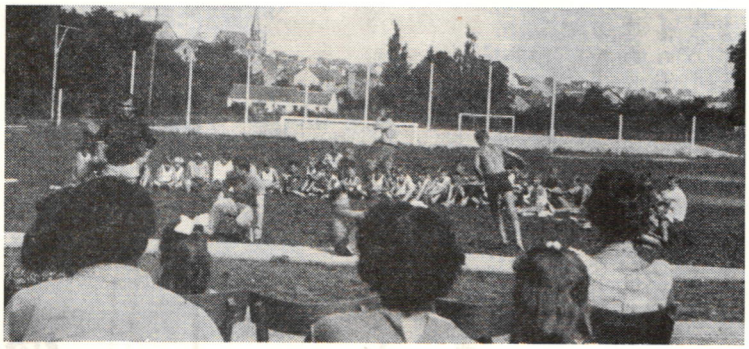




スポーツを楽しむ青少年

＝西独見聞記＝

共同通信　大角三郎



ザイバースバッハのスポーツシューレ

ことしにはいってから、正確には文相の諮問機関である保健体育審議会が、三月四日に次官通達改正案の「中間まとめ」を発表して以来〝社会体育〟ということばが、スポーツ関係者の間で大流行になった。

ところが、〝社会体育〟とはなにか、ということになると、きちんとした定義をくだせる人はいないようである。

理論家といわれる人でさえ、バク然と「外国ではこうしてるらしい」というていどである。西ドイツの黄金計画がよく引き合に出されるが、これにしても、日本に紹介されている結構づくめの内容と、現実の計画にはかなりずれがあるようだ。

今度、たまたま機会があって、西ドイツでは青少年がどんな形でスポーツを楽しんでいるかを見聞した。見聞といっても断片的なものにすぎないのだが…。

○…八月初め、マインツからバスで西に一時間ほどはいった、ザイバースバッハという村のスポーツ・シューレ（スポーツの総合施設）を訪れた。日本の青少年スポーツ・センターは、この種の施設を模倣したものだということがひと目でわかる。

日本のスポーツ・センターにしても本栖湖、湯布院、田辺など不便な場所にあるが、ザイバースバッハはもっと不便。近くのビンゲンという町に出るのに、バスが一日二本（日曜日は一本）しかない。管理人は、「こんなところでもなければ青少年のための施設なんかつくれません」と苦笑する。このあたりは日本の事情と全く同じである。

○…施設は、というと広場が二面とプール、それに四十人ぐらい泊れる宿舎があるだけ。それでも同行したラインラント・ファルツのスポーツ少年団の団員に聞くと、年に二回ぐらいはここに来るという。宿舎が満員だと、広場の片隅にキャンプを張って寝る。使用率だけが日本のものと違うようだ。

○…同行の団員の中に、近くの高校の庭球チャンピオンという少女がいた。さっそく広場の片隅にネットを張ってバドミントンを始めた。そばにいた別の少女に「彼女なかなかうまいね」というと「テニスのチャンピオンだもの、あたり前だわ」「バドミントンの選手はいないのかね」「いないわ。道具はどこのスポーツ・クラブにでもあるけど、バドミントンを専門にやる人は国中でもほとんどいないのじゃないかしら」

○…彼らはそれぞれの町のスポーツ・クラブで二ないし三種目のスポーツを楽しんでいる。月謝？はサッカーが2マルク（百八十円）その他が1マルク（九十円）。

「だけどテニスは高いの。6マルク（五百四十円）ぐらいするわね」だからテニス人口は少ないのだという。

○…ちなみに、彼ら（十七才前後）の一カ月の小遣いの額は40～50マルク（三千六百円～四千五百円）。映画の入場料は6マルクもするので、めったに見られないそうだ。つまり、西ドイツのような階級社会では、下層の人たちのためにスポーツ・クラブやシューレがあるらしいのだ。

「そりゃそうですよ。夏休みにこんなところに来る連中は、お金がないに決まっていますよ。金持ちはどこにても遊びに行けますからね」―リーダーの大学生が説明した。西ドイツのスポーツ振興政策は下層階級のレジャー対策という側面が強いように思われた。

北から南から

ハッスル！ ママさんコーチ

栗山高　下山重子さん

「クマ、カワイ！もっと足を使って――」

夕なずむ、ここ栗山高校体育館に女性のカン高い声が響きわたった。

声の主は、とみれば、こぶとりの中年のオバさん。荒々しい声とは、うって変わって、選手の動きを追う目は、慈愛に満ちあふれている。

下山重子、三十九歳。サラリーマン家庭の主婦であり、二児の母である。

教職に身を置く人なら、いざ知らず、主婦のバドミントン・コーチというのは、全国でも珍しい存在ではなかろうか。

昭和四十一年の暮れ、ご主人（北海道新聞勤務）の転勤で東京から北海道・栗山に移り、翌年の二月から栗山高校バドミントン部のめんどうをみている。

週三回、高校の練習、さらに毎週土曜日は町教委主催の婦人スポーツ教室――。バドミントンに明け暮れの毎日、といっても過言ではなさそう。

コーチ歴は浅いが、彼女の競技歴は輝やかしい。とくに札幌学園高校時代には、全国高校（第三回・昭和二十六年）で二位（北海道大会は優勝）を占めたのをはじめ、常に北海道女子バドミントン界のトップにあった。

時代の流れとともに、ゲームの連びはもちろん、ストロークひとつにしても、大きく変わった。それだけに〝全道〟と名のつく大会には、必ずといってよいほど、真剣にプレーをみつめる彼女の姿があった。

しかし、彼女の指導方針は徹底した〝基本練習〟のくり返しである。決して目新しい小手先きのプレーには走らない。処世訓〝努力〟の二字を身をもって教え込んでいる。常に人の倍、練習し、人の倍、努力する――ということを…。

もちろん無報酬である。そればかりか、遠征や大会見学はすべて〝持ち出し〟という。こういった努力がむくいられぬはずはない。昨年の全道選手権大会では、教え子の柴田君（現札鉄）がシングルスでなみいる強豪を押えチャンピオンとなった。優勝の決まった瞬間、会場の片すみで、そっと目がしらを押えていた彼女の姿が、今でも忘れられない。

〝底辺拡大〟これが、お世話になったバドミントン界への恩返し――というが、栗山といえば、札幌からバスで一時間ちょっとのところだが農村地帯で封建性の強いところ。それだけに何かと苦労も多いことだろう。

家庭とコーチ。両立させるにはご主人の深い理解が必要。この点夫君の周作氏は、夏はソフトボール、冬はスケートといったぐあいに、コーチに関しては先輩でありよき先生。サーキットなど科学的なものはすべてご主人のアドバイスという。文字どおりの〝オシドリ・コーチ〟であり、日本体育協会が叫ぶ〝社会体育〟の推進者でもある。

（北海道新聞・荒島敏幸）

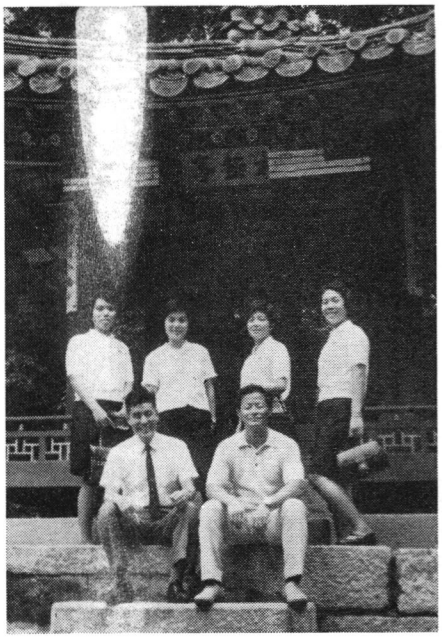


〝ライバル〟を育てたい

▶韓国親善訪問記◀

《特別寄稿》
日本女子体育大監督





南山山頂から一望のうちに見わたすソウル市街。高層ビルの点在する四周に、見よ！　山々は緑のベールにおおわれているではないか。山という山が赤茶色の地肌をむき出しにしていた七年前の記憶が白昼夢のようにしか思えない。

日本に追いつき　追いこせ

街をゆく人々々。そして車の洪水。日本に追いつき追い越せの合言葉。有り余る労働力をかかえて、しかし、韓国の人達は朝早くから勤勉である。少くとも韓国は日本に追いつきつつある。しかも急ピッチで……。

無気味な三十八度線

だが、ソウル北方四十マイルは三十八度線。その向う側はいわずと知れた北鮮である。先頃山越えで侵入した北鮮軍一ケ小隊は大統領官邸真近に迫った。危うく撃砕はしたが、韓国に与えた衝撃は深く大きかったらしい。直ちに国民軍二百万余が編成された。町角に立つ警官も銃をかついでいる。国民意識、危機意識が私ども東京人より直接的であるのは必然であろう。

日韓女子で　世界選手権戦を…

去る八月二十八日、羽田空港を飛び立った私どもは、同行五名。日女体大の監督、コーチ、主将、副主将、主務の役員団であった。

韓国のプレーヤーに強くなってもらい、日本と絶えずせりあうようになれば、日本のユ杯確保も一層強固になろう。かってマラヤはウォン・ペン・スンをタイ国に派遣し、一時はタイがマラヤを圧倒した。そしてマレーシアとなった今、トマス杯をインドネシアから奪取して見事選手権国となった。男子におけるこの先例を女子の世界選手権戦にも再現したい――これが一つ。

韓国大学生を　日女体大へ…

在来の韓国女子体育指導者は日女体大の出身者が過半を占めていたが、最近の学生は多くがアメリカに留学する。韓国政府が日本へ派遣する学生は理科系に絞られて来たのだ。日本語のわかる女子体育指導者を韓国に存続させたい。そのため韓国の留学生を日女体大へ迎え得るようにしたい――これが一つ。

これらは、あるいは日本の文部省やバドミントン協会の問題かも知れない。しかし、私どもにも出来ることがあるはずであり、私どもでなければ出来ない面もあるはずである。

明年以降の遠征の露抜いに派遣された役員団であったが、韓国協会の御厚意により、すばらしい選手村へ、しかも一泊三食八百円という廉価で入れてもらい、毎日練習場を与えられ、親善試合まで催して載いた。試合など全く念頭になく、観光ビザで入国したのであったが。

私どもの訪韓の真意を理解してもらうため、韓国協会の指導者達にも訴えた。日本大使館では四十分以上もしゃべりつづけた。

だが、百万言をろうするよりも、わずか五泊六日の滞韓中に毎日毎日、韓国選手と一緒にプレーしたことの方が、遙かに遙かに効果的であったと、今は信じている。

（四四・九・一〇）

質問箱

この質問は「バドミントン競技」の著者・川端昇市氏に寄せられたものですが、技術関係担当の「指導委員会」で答えてもらうことにしました。なお、質問が多岐にわたっているため、順次、分載します。（編集部）

質問　ストロークをマスターするためには、手首が強くなければならないと思います。そこで私たちはビールびんに砂をつめ、手首だけで上下する〝ビン振り〟をやっています。

ところが最近、この運動が手首を鍛え、クリヤーが長く飛びスマッシュが速くなるかどうか疑問をもつようになりました。「バドミントン競技」には「ラケットを8の字のように素振りする」とあり、私がやってみたところ、何となくシャトルがよく飛ぶような気がします。また「ラウンド・ザ・ヘッド・ストローク」のように、手首だけで左右に動かす運動をやっているところもあるそうですが？

（北海道根室高主将・清水三志）

答え　「ビン振り、その他の素振りが手首を強くし、各ストロークの習得に役立つか」という質問と判断します。

これらの運動は、いわゆる、〝過重負荷〟の理によって、実際のラケットを振るときよりも重い負荷を筋肉に与え、筋力を強める方法として考えられてきたものです。

あまり無理な回数をかせぐのでなければビールびん（必ずしも砂を入れる必要はない）などの素振りは、それなりに手首を動かす筋力を強めることになります（手首そのものが強くなるのではない）

このほかにエキスパンダーを用いたり、棒を振り回したり、ツルハシをひねったり、くふうがあるようです。

これには①手首を蝶つがいのように（おいでおいでのように）動かすのと②手ぬぐいをしぼるように腕をひねる方法と、二つに分けてトレーニングした方がよいとの意見もあるので申しそえておきます。

さて、ここで考えていただきたいのは、いわゆる手首を強くしただけでバードが飛んでくれるのではないということです。全身、とくに腕のムチのようなしなやかさ、しかも、鋭い振り（ひっぱたく、といった方がわかりやすい）が大切なことは、いうまでもありません。

その、ひっぱたきのムチの動きの中に、手首の動きが生かされることが、より重大なことです。8の字の素振りをしたら、なんだかバードが飛んでくれたというのは、この理を示しています。

なお、北海道には小飼理事長平沢指導委員はじめ、すぐれた指導者の方々がたくさんおいでになるので、北海道協会にご連絡の上、実地の指導を直接受けられるようおすすめします。

（伊藤基記）

商業誌ら新聞通信でも紹介

「バドミントン界」創刊号から大好評

早くも大好評――本誌創刊号は、お目見得と同時に、すばらしい大好評を拍しています。

創刊号は、日本バドミントン協会が加盟している上部団体、日本体育協会や、他の競技団体にも配布されましたが、みな一見して「これは、すごい」と驚きの声をあげました。

この日本体育協会の数多く、たとえばサッカー、バスケット、バレー、ハンドボール、軟庭、弓道などでも、毎月一回の定期刊行物として、雑誌を出していますが、純然たる企業から出版されているバレーをのぞき、わが「バドミントン界」のように〝見て楽しく、読みやすい〟総合雑誌はありません。

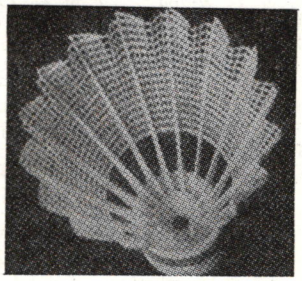
「われわれバドミントンを愛するものが心待ちしておりましたバドミントン総合雑誌〝バドミントン界〟発刊おめでとうございました。

第一ページを開いてみれば、内容ともに最高のバドミントン誌でした。じかし残念なのは購入したのが東北大会の会場（注・青森）だったのです。

山形の書店に問い合わせたところ、入荷してないとのこと、このような状態ですので、これからの購入がむずかしくなります。それで一筆とりました。この点はどうなってるんでしょうか。次号の内容を一日も早く手に取って見たいのです。今後、地方の書店で購入できることを希望します」（日大山形高・牧野文雄君の便りから）

また、この本誌のことは日刊スポーツのほか〝週刊文春〟誌上でも写真入りで紹介され、共同通信からは特信記事として、全国の加盟新聞社に流されました。きっと、どこかの新聞紙上で、この記事を読まれた方もいることでしょう。

一競技団体の雑誌が、このように扱われたのは、日本のスポーツ界でも、きわめて珍らしいことです。



バドミントン CARLTON
普及の素
ナイロンシャトルコック

PAT 195747
PAT 233892
バドミントンシャトルコック製造販売
日本カアルトン株式会社



第八回世界バドミントン選手権（トマス杯）大会の豪亜ゾーン代表決定戦は九月十二、十三日の両日、ニュージーランドのクリストチャーチで開かれた。カードは地元ニュージーランドと遠来のシンガポール。結果は第一日で有利に立ったニュージーランドが第二日も食い下がるシンガポールを突き放し、7－2で破ってインターゾーン出場権を獲得した。

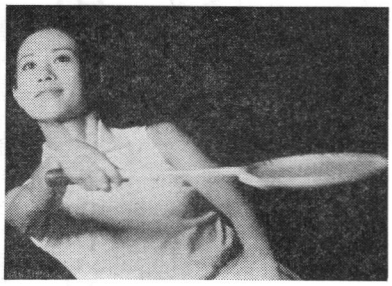
第一日はシンガポールが第1シングルスで好スタートを切った。ウォン・テ・ギーがジョン・コンプトンを相手に巧妙なプレースメントとラケットさばきを見せポイントをあげた。15－1、15－4のストレート勝ち。だが地元のニュージーランドも負けてはいなかった。シンガポール以上に闘志を燃やしたからだ。続くリチャード・パーザーは第二セットを落したものの、ウィ・チューン・センに2－1で勝ってタイ・スコア。パーザーは第1セット、15－11と苦しんだが一応試合の主導権を保ち続けた。そして第二セット反撃をはかるウィに12－15とセットを奪われた。が、ウィの懸命な反抗もここまでが精一杯。第三セットはもうパーザーの気力、技術が圧倒的にウィを上回わっていた。15－6。ニュージーランドのインターゾーン進出決定の山はこの一戦だったといえる。続く第1ダブルスはニュージーランドがリチャードとその弟ブライアン・パーザー組。対するシンガポールはガン・コク・ペン、リ・チェン・イ組。兄弟でイキの良く合ったニュージーランドは、試合時間わずか25分という〝速攻〟で15－4、15－9と完勝した。こうなるとニュージーランドの士気はいやがにも急上昇した。第二ダブルスはジョン・コンプトン、ドン・ヒギンス組が善戦したが、ウィ・チュン・セン、ウォン・テ・ギ組を15－12、15－11で退けた。

第二日は前日の試合内容が大きく物をいった。遠征で打倒ニュージーランドに闘志をたぎらせたシンガポール。だがその闘志は第一日で見るも無残に打ちくだかれた。一方迎え打つニュージーランドは、地元という無形の〝心強さ〟も手伝ってわずか1試合を失っただけでインターゾーン進出を決めた。

インターゾーンは七月一日、ロンドンで開かれたIBF（国際バドミントン連盟）年次総会の席上で決定した通り、来年五月又は六月にクアラルンプールで開かれる。組み合わせからみると同国はアジアゾーン代表国と1回戦で対戦することになっている。アジアゾーン予選の緒戦で香港を破った日本。同ゾーン西側セクション代表国を破りゾーン代表国となれば当然ニュージーランドとの対戦となるわけだ。

（記録はAP、ロイター、UPIから）　共同通信　竹市行男

〈表紙〉



久美晶子（ひさみ・あきこ）

SKDエイト・ピーチェスのトップダンサー。ただいま浅草・国際劇場で公演中の秋のおどりの花形である。

青山で生まれ中野で育った東京っ子。昭和三十五年にSKD入りしたからもう十年選手だ。

子供のころ、亡父がよく用具を買ってきてくれたので、なれ親しみ、近所の子供たちとラケットで遊んだそうだ。

本格的コートに立ったことはないそうだが、さすが踊りで鍛えられただけあって、素晴しい姿態。ネットに向き合うとサマになる。

春のおどりから秋のおどりまで、毎日舞台に立つ日常だけに「バドミントンをやるひまがないんですけど、これを機会に国際でもみんなとやるように心がけます」とは、頼もしい限り。

撮影でひと汗かき「もうクタクタ。きょうはもうおどれないわヨ」とふざけていたが、もしSKDバドミントン・クラブが誕生すれば人気抜群じゃないかな？その日に期待。

身長163㌢、85、50、85、というサイズ。二十五歳。（M）

サンワ印シャトルコック
水鳥球・陸鳥球
Sanwa
本年度検定合格
株式会社　三和
東京都大田区雪ヶ谷町307番地
電話（729）8549番

第4回 私立女短大大会

第四回全国私立短大体育大会の女子バドミントンの部大会は八月二日から三日間、東京・駒沢公園体育館で行なわれた。

団体戦は相沢・竹中の名コンビを持つ新潟・青陵が断然強く決勝で日女体大を3―1でくだし、二連勝を飾った。

個人戦は、このコンビの欠場（国際学生壮行試合のため）もあったが、日女体大勢がよくがんばり、単複とも同士打ちの結果、シングルスは横田、ダブルスは横田・保坂組が、ともに初の栄冠を獲得した。

地方勢では東海女子、山形女子の活躍ぶりが目立った。

◈ 団体戦 ◈

▼一回戦

市邨学園（愛知）3―1四天王寺女（大阪）
東海女（岐阜）3―0大妻女（東京）
日体大（東京）不戦勝 尚絅女（宮城）
金蘭（大阪）3―2青山学院（東京）
千葉敬愛（千葉）不戦勝 関東学院女（東京）
杉野女子（東京）3―0常盤会（大阪）
日女体大（東京）3―1山形女（山形）

▼二回戦

新潟青陵 3―1 市邨学園
東海女 3―2 日体大
金蘭 3―0 千葉敬愛
日女体大 3―2 杉野女子

▼準決勝

新潟青陵 3―1 日体大
日女体大 3―0 金蘭

▼決勝

新潟青陵 3―1 日女体大

◈ 個人戦シングルス ◈

▼準々決勝

柴田（市邨学園）2―0 西村（大妻女子）
横田（日女体大）2―0 桑原（東海女子）
保坂（日女体大）2―0 影山（杉野女子）
早坂（山形女子）2―0 岡野（青山学院）

▼準決勝

横田（日女体大）2―0 柴田（市邨学園）
保坂（日女体大）2―0 早坂（山形女子）

▼決勝

横田（日女体大）2―0 保坂（日女体大）

◈ 個人戦ダブルス ◈

稲木・小林（日女体大）2―0 萩原・片桐（杉野女子）
加藤・早坂（山形女子）2―0 金子・越川（日体大）
保坂・横田（日女体大）2―0 中川・大槻（金蘭）
増田・山田（市邨学園）2―0 市川・佐藤（日体大）

▼準決勝

稲木・小林（日女体大）2―1 加藤・早坂（山形女子）
保坂・横田（日女体大）2―0 増田・山田（市邨学園）

▼決勝

保坂・横田（日女体大）2―0 稲木・小林（日女体大）

■学連の記録■

◇ 関東選手権大会 ◇

（6月21～30日）

▼男子シングルス

①本間順次（中大）②椙野尾昌一（法大）③池田信孝（法大）

▼男子ダブルス

①森芳夫・池田信孝（法大）②米田実・笠井教行（法大）③今泉勉・岩下一雄（中大）

▼女子シングルス

①湯木博江（日女体大）②本間恵美子（日女体大）③高坂薫（青学大）

▼女子ダブルス

①湯木博江・本間恵美子（日女体大）②松本直美・高坂薫（青学大）③石崎喜代子・小片千恵子（日体大）

◇ 関西選手権大会 ◇

（6月25～28日）

▼男子シングルス

①山口勇（近大）②植田寛（近大）③竹原茂（近大）

▼男子ダブルス

①関久幸・米納隆雄（同志社）②山口勇・小野健二（近大）③久保田健司・丸井広道（神戸大）

▼女子シングルス

①池田栄子（東大阪短大）②篠山和江（東大阪短大）③岩田定子（大阪樟蔭女大）

▼女子ダブルス

①池田栄子・篠山和江（東大阪短大）②岩田定子・西川多佳子（大阪樟蔭女大）③町田正代・加藤幸子（大阪市大）

◇ 関東春季リーグ戦 ◇

（5月9～24日）

▼男子一部

①中大②法大③早大④立大⑤日大⑥慶大

▼男子二部

①関東学院大②日体大③青学大④明大⑤千葉大⑥神奈川大（一・二部入替戦で関東学院大が一部昇格）

▼女子一部

①日女体大②青学大③日体大④東女体⑤昭女大⑥杉野女大（一・二部入替戦で杉野女大が一部残留）

◇ 関西リーグ戦 ◇

（5月19～27日）

▼男子一部

①近大②関西大③同志社大④神戸大⑤関学大⑥立命館（一・二部入替戦で甲南大が一部昇格）

▼女子一部

①武庫川女大②大阪樟蔭大③大阪市立大④大阪教育大⑤関学大⑥京教大（一・二部入替戦で東大阪短大が一部昇格）

◇ 第12回東日本選手権大会 ◇

（7月11～13日仙台市）

▼男子シングルス

①今泉勉（中大）②米田実（法大）③笠井教行（法大）

▼男子ダブルス

①今泉勉・岩下一雄（中大）②我妻一郎・滝野公一（法大）③佐藤信夫・平井克英（慶大）

▼女子シングルス

①湯木博江（日女体大）②浦口恵子（日女体大）③本間恵美子（日女体大）

▼女子ダブルス

①湯木博江・本間恵美子（日女体大）②石崎喜代子・小片千恵子（日体大）③浦口恵子・谷浦三輪子（日女体大）

◇ 第9回西日本選手権大会 ◇

（8月13～16日山口市）

▼男子シングルス

①河田満（名商大）②山口勇（近大）

▼男子ダブルス

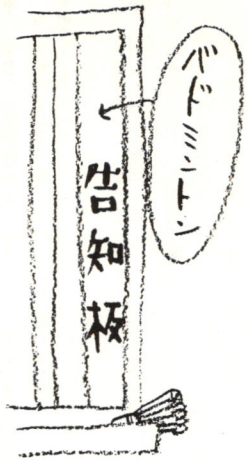
①山口勇・小野健二（近大）②関久幸・米納隆雄（同志社）

▼女子シングルス

①池田栄子（東大阪短大）②篠山和江（東大阪短大）

▼女子ダブルス

①池田栄子・篠山和江（東大阪短大）



インカレ開幕は11月10日

■学連日程■

◇全日本学連

▽東西対抗競技大会（11月9日、東京・岸記念体育会館地下体育館）

▽全日本学生選手権大会（11月10日～17日、横浜公園体育館、日産自動車横浜体育館）

▽学連定例総会（11月9日、岸記念体育会館）

◇関東学連

▽秋季リーグ戦（10月16日～11月1日、目黒、板橋区立体育館）

◇関西学連

▽秋季リーグ戦（10月20日～29日、大阪市立中央体育館）

◇中部学連

▽中部学生選手権（11月20日～23日、松本市）

◇第十七回早慶バドミントン定期戦

時・九月十四日（日）

場所・慶大日吉記念館

▽高校戦

早稲田学院 4（単2―1 複2―0）1 慶応高校

〔通算成績は早稲田学院の1勝6敗〕

▽OB戦

三田クラブ（複4―3 3分け）稲門クラブ

〔通算成績は三田クラブの11勝4敗1分け〕

▽大学女子戦

慶応大学 5（単3―0 複2―0）0 早稲田大学

〔通算成績は慶応大学の6勝8敗〕

▽大学男子戦

早稲田大学 13（複9―1 単4―1）2 慶応大学

〔通算成績は早稲田大学の6勝11敗〕

■日本協会専門委員長会議報告

8月31日午前10時

於・体協会議室

▼指導委員会

●指導方針の確立、特に今年は研修会に力を入れ、重点的に行う

●全国指導者研修会は11月21・22・23日の3日間、青少年スポーツセンターで行いたい

●青少年のクラブ活動（小グループの育成）

●低年層、高校生、トップレベル等の指導はレベルの相違があるのでそれぞれに準じた研修会をもつことが必要である

▼競技委員会

●大会運営規定⬇小委員会

●主催大会の期日、会場の早期決定

●高体連に関する諸問題

▼総務委員会

●専門委員会規定の改正

●各通達事項の送付等の敏速化

●各委員会の来年度の予算について検討する

●世界選手権大会に附する合宿予算

▼審判委員会

●決定事項の通知及び書類関係の敏速化

▼用具委員会

●シャトルの無償配布について検討する

▼財務委員会

●後援会の名称はなくなるがこの意志を汲み、事業は存続する

●基金の増加については引き続き努力する

●登録料の値上げ問題についての検討

▼広報委員会

●「バドミントン界」の発刊について事業部を新設する

〔出席者〕

川端（理事長）・伊藤基記（指導）・相場清一（競技）・上原正士（財務）・小飼栄一（広報）・菊地利明（総務）

■日本協会常務理事会報告■

8月31日午後2時～6時

於・体協会議室

●開会挨拶　森友副会長

●国際学生選手権大会報告

小飼栄一監督

（男子単を除き五種目に優勝）

▼報告事項　川端理事長

①日韓高校親善大会終了

②国体委員会の報告

③インドより指名招待の件

インド協会より四名の招待があったが国内大会が同時期に集中するため辞退

④トマス杯選手団決定

⑤和歌山県で行われる実業団大会の件について現地視察報告と県内の事情説明

▼用具委員会報告

●用具検定については全員出席のたてまえをとっているがこれは同委員会で研究し変更する必要がある

▼表彰委員会

●国体の際の表彰についてユ杯、国際学生等についても合わせて同委員会で検討する

なお、トマス杯について香港戦に勝った場合、10月より2月まで4回合宿を行い、1、2回で12名の候補選手から6名を決定、その6名をもって3、4回の合宿を行うことが決定した

〔出席者〕

川端・小宮・伊藤（基）・市嶋・相場・伊藤（鉱）・五十嵐・毛利・上原・岡村・小飼・佐藤・菊地以上13名と森友副会長・村山事務局長

次号予告

技術講座が開講されました。次号は国体が中心になりますが話題の〝スポーツ・サロン〟のほかいろんな読み物が登場します。理事長対談第二回は、目下ブームにわくスイミング・クラブの話題にからんで、フジヤマのトビウオ古橋広之進氏（水連競泳委員長）にお話を聞きます。

その他、連載企画として「北から南から」「私の場合」など。またバドミントン担当記者による「記者座談会」など盛り沢山な内容です。ご期待ください。

〔主な内容〕

▼特集1　国体バドミントン競技会から
①記録詳報
②優勝県の横顔とハイライト

▼特集2　記者座談会、バドミントンの人気を盛り上げるには
③各種大会の記録
④人事、消息、組織の決定事項、お知らせ
⑤この機関誌に対する希望、意見など

▼特集3　技術講座

▼新連載読み物　スポーツを科学する（小林範夫）

写真があれば、なおけっこうです。

▼北から南から
▼グループ訪問
▼人物スポット
▼私の場合
▼スポーツ・サロン

編集部から

読者のみなさんからの投稿を歓迎します。

原稿の長さに制限はありませんが、編集のつごう上、一部を書き直したり、割愛することがありますので、あらかじめ、ご了承下さい。テーマとしては大体、つぎの通りです。

①質問箱＝主として技術、トレーニング関係の質問、批判、反論など
②地方の便り＝エピソード、ニュース（新人やヒーロー、変わりダネ選手や指導者、選手育成や普及の努力など）
③各種大会の記録
④人事、消息、組織の決定事項、お知らせ
⑤この機関誌に対する希望、意見など

写真があれば、なおけっこうです。

■□■□

編集後記

○……長崎ではバドミントンの古文書が出てグラビアページに精彩をはなち、トマス杯は無事、アジア東地区代表に、そして〝秋の国体〟を迎えます。

今月も多忙でした。三、四号から軌道に乗るでしょう。

○……いぜん原稿が遅れがちです。そのたびに編集子をイライラさせます。特効薬は「締切り日」を守っていただくだけでいいのです。編集局はエンジン全開、フル運転です。販売局にも注文が殺到、うれしい悲鳴です。

○……北から南から――うれしい便りをお待ちします。こんな人を、またこんなクラブ、学校をお知らせください。愛される〝バドミントン界〟に、みんなの手で、力で育てようではありませんか。（M）

■□■□

○…あわただしいなかでの第二号が、やっと予定に合わせてすべり込んだ。今号は、夏の間の各種競技会を一挙に収容したため、記録のオンパレード。本来なら、各大会とも、もっとくわしく記録をのせるべきなのですが――。

○…おかげさまで、創刊当時多少もたついた編集スタッフの組織も、なんとか編成がえし、〝総力戦〟の体制だけはととのえることができました。今後は理事長が最高責任者となって縦横無尽の指揮をとる予定です。

○…〝地方と中央〟〝底辺と頂点〟あらゆる人々に読まれるためのもの、という角度で企画を立てていますが、今号の内容いかがでしょうか。この競技が他のスポーツ界の人々にも広く認識され、また、他のスポーツ界のできごとが、バドミントンに参考になれば、ということで理事長対談をはじめました。ご期待下さい。（G）

■□■□

【バドミントン界】　第二号

昭和44年9月25日　印刷
昭和44年9月30日　発行

編集兼発行人　川　端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南町25
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都江東区永代一の五の二
有限会社　和田印刷所

定価　一部　百円

N.B.I. の C.M. BRAND



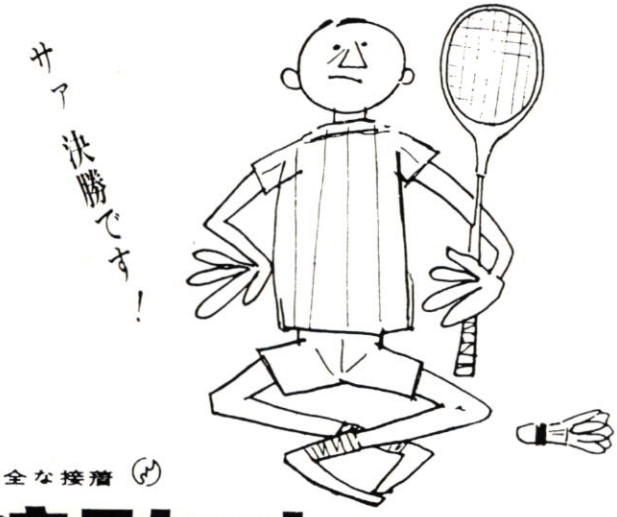
バドミントンの気品
ＣＭの風格

!!ご存じですか!!

★ 我国でシヤトルコック製法を一番先に機械化して水鳥シヤトルを普及したのはＣＭです。
★ Ｎ.Ｂ.Ｉはバドミントン普及発展のために製造から直売システムです。
★ 現金でお申込になれば卸価格でお求め出来ます。

日本バドミントンインダストリ株式会社

東京都三鷹市井ノ頭４－８－７　　ＴＥＬ　0422（47）3331(代)－３



K TOKYO KAWASAKI

素材の厳選　完全な接着

カワサキラケット

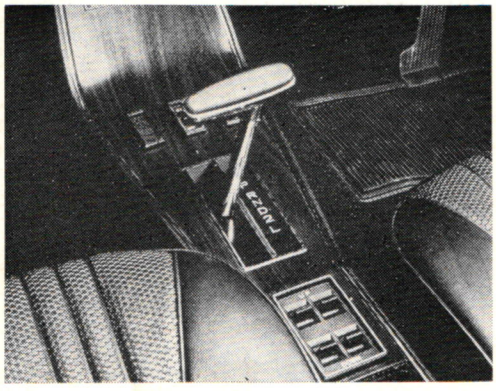
河崎ラケット工業株式会社

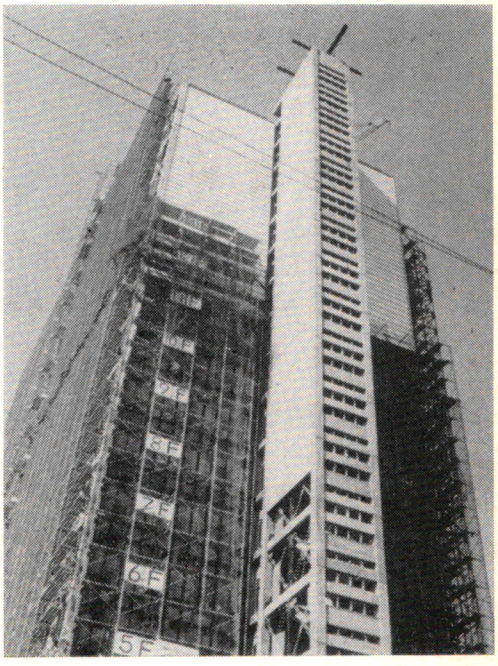
本　社　東京都台東区台東２－28－５

TEL　(831)　9161(代)～3・6657・1884・0453

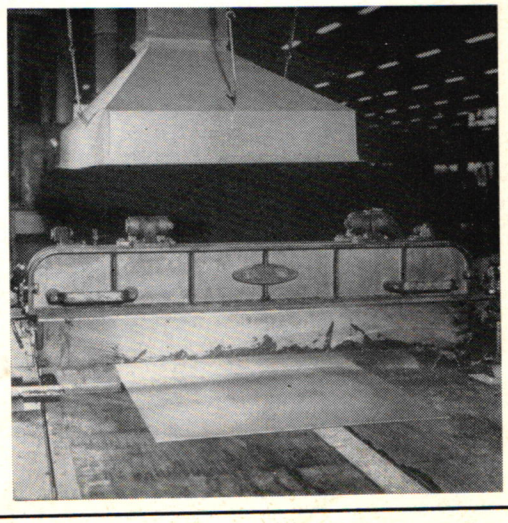
月刊「バドミントン界」
第二号
昭和四十四年九月三十日発行
発行所
東京都渋谷区神南町二五
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円

SONY®
高性能接着剤
ソニーボンドマスター





ソニーケミカルはエレクトロニクスのトップメーカーであるソニー株式会社の化学部門を担当する会社です。米国有数の総合化学メーカーＰＰＧインダストリー社と技術提携し、その長年の経験を土台として卓越したソニーの技術と設備によって建築・車輌・船舶・航空機・化学工業・電子工業にとあらゆる産業に貢献する接着剤をはじめ各種の化学製品を製造し、日本をはじめ東南アジアの各地へ供給しております。



ソニーケミカル株式会社

東京　東京都大田区東糀谷５－23－14
Tel. 営業事務所 (742)3441(代) 工場 (742)4641(代)
大阪　大阪市北区西堀川町18番地 高橋ビル東館10階
Tel. (363) ２０７１～３